

三重県

みえ
歴史街道
ウォーキング
マップ

巡見道

JUNKEN



巡見道

巡見道の概要

巡見道は、江戸時代に幕府の巡見使の通った道のこと、一般には特定の道を示すものではないが、北勢地域には今も街道名として残っていることから、巡見使の通行がこの地に大きな影響を与えていたことがうかがえる。

街道は、亀山市の東町で東海道から分かれ、現在の国道306号を縫うようにして北上する。北勢地方を約60キロメートルにわたって縦に貫き、三重県を出た後は、さらに関ヶ原まで延びて中山道と連絡している。東海道と中山道をつなぐ幹線であるうえ、鈴鹿山脈から発する諸河川に沿う東西の道の連絡道として交通上重要な役割を果たした。

巡見使が最初に派遣されたのは、三代将軍家光の寛永10年（1633）で、これが先例となり、将軍の代替わりごとに諸国の政情や民情などを査察して幕政の参考とし、同時に災害などの実情調査も行った。巡見使は19回派遣され、うち県内への派遣が明

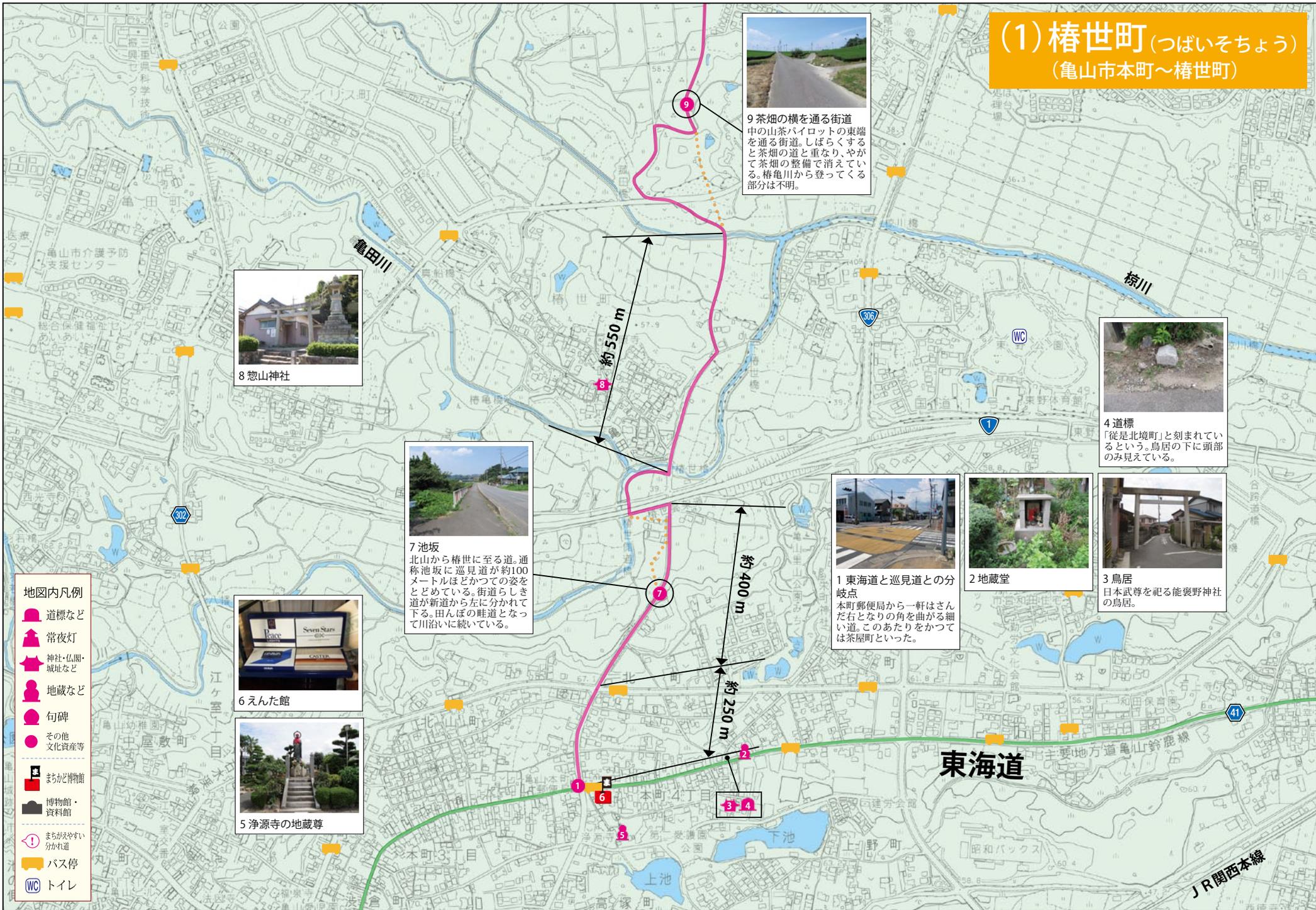
らかなものは10回ある。天明8年（1788）の巡見使は、東海道各地を巡見したのち桑名に入り、四日市から伊勢街道を南下して志州鳥羽へ至った。そののち久居、伊賀を回り、亀山に入ってから巡見道を北上し、いなべ市藤原町山口へ向かっている。

各藩とも巡見使の藩内通過にあたっては多大な緊張を強いられ、員弁地方では道にきれいに砂をまき、数日前から一般の通行を禁じるなど、大変な気遣いだったという。巡見使は、享保年間（1716～1735）まではその報告によって役人・諸侯らの不正を正したりする効果もあったが、後には形式化し、天保9年（1838）を最後に行われなくなった。また、文化11年（1814）、西日本の測量の旅上にあつた70歳の伊能忠敬もこの街道を歩いている。街道沿いの村々には、その村高や家数、交通状況、寺社、名所旧跡、遠山の見渡しなどを記した差出し書の提出が求められるとともに、測量隊一行の具体的な日程も事前に連絡されており、近郊の庄屋は人馬や宿の手配をはじめ総動員で接待にあたったという。

東海道と中山道を結ぶ巡見道は、道標や常夜燈などは少ないが、いなべ市藤原町山口や鈴鹿市伊船などには「両宮」などと刻む常夜燈も見られ、庶民の間では参宮街道としても利用されていたことがうかがえる。



(1) 椿世町 (つばいそちょう) (亀山市本町～椿世町)



(3) 川崎町・A (亀山市川崎町)



10 地藏群
西生寺の境内の小舎の中に地藏がたくさん納められている。



9 四方佛石
四角い石の各面に仏像が彫られている。石塔の隣にある。



8 石塔
西生寺の境内にある。近くに四方佛石や地藏をまつる小舎がある。「安養山現住祖心和尚代」「願主「江戸湯嶋切通町 北井新兵衛」などと刻まれている。



7 西生寺
境内には石塔や地藏、四方佛石がある。隣接する墓地にも五輪塔などがある。



11 道標
長善寺跡付近で街道が少し広がった辻の所に立つ。「右亀山 左高津口道」と刻まれている。



12 江戸屋
江戸時代の宿屋。ここに「とせ」という義婦があり、主家を再興するため、幼主を育て献身したことが心学の大家柴田鳩翁の著によって世間に宣伝された。

この部分は
10・11 ページを
ご覧ください



6 道標
大正3年(1914)のもの。巡見道と西願寺への道の十字路に立つ。「右左 菰野道」「大正三 寄附者田中」と刻まれている。



5 西願寺
巡見道と辺法寺へ至る道の十字路北側。かつて峯城を拠点にこの地に勢威をふるっていた関氏の五大将峯氏の祈願寺であった。りっぱな鐘楼があるが鐘はない。



4 流れの宮
太田橋北詰の森。かつてここは大雨が降るごとに橋が流れ、堤防が決壊したという。



3 町の地藏さん



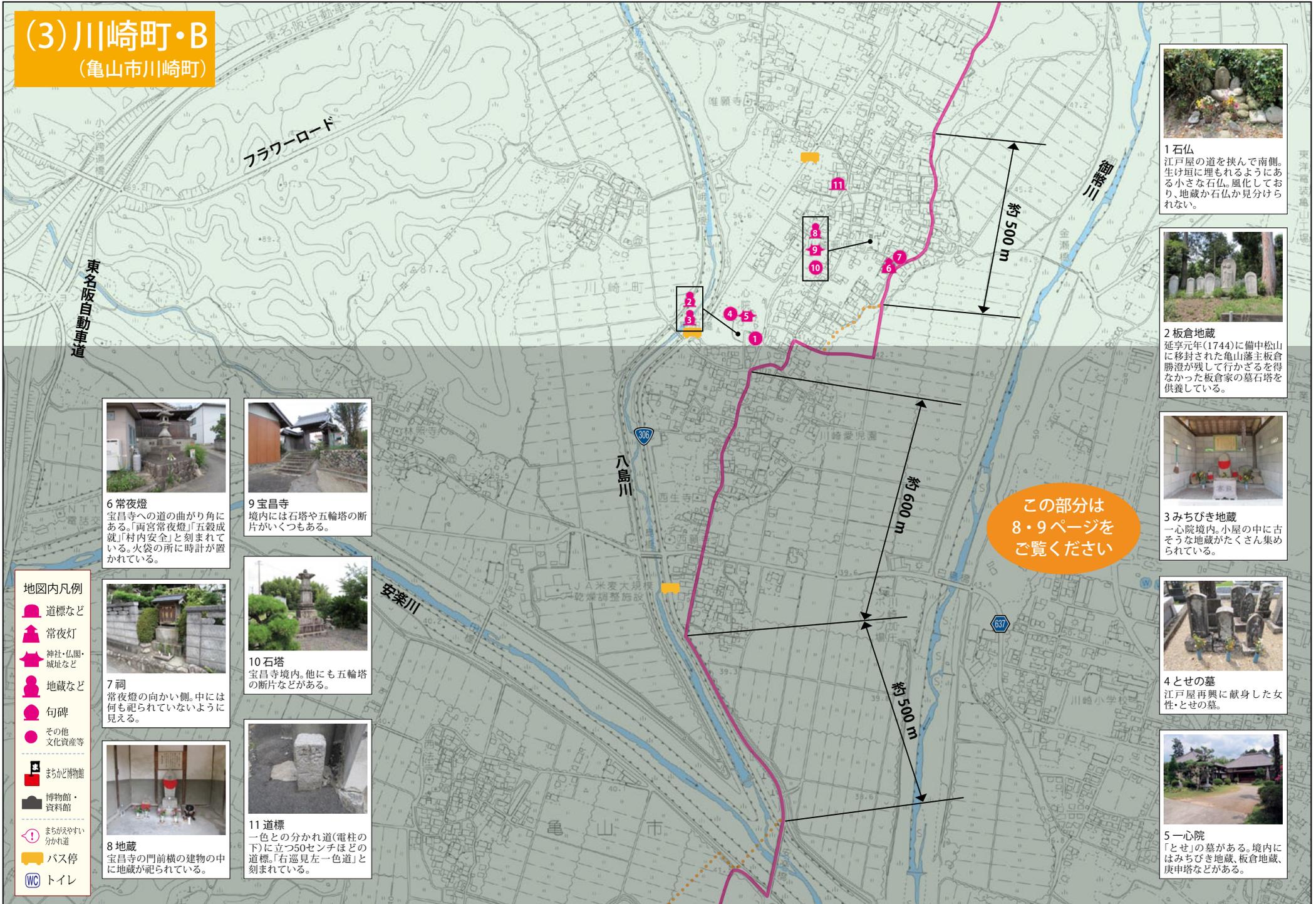
2 能褒野開拓記念碑



1 能褒野神社

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(3)川崎町・B (亀山市川崎町)



1 石仏
江戸屋の道を挟んで南側。生け垣に埋もれるようにある小さな石仏。風化しており、地蔵か石仏か見分けられない。



2 板倉地蔵
延享元年(1744)に備中松山に移封された亀山藩主板倉勝澄が残して行かざるを得なかった板倉家の墓石塔を供養している。



3 みちびき地蔵
一心院境内。小屋の中に古そうな地蔵がたくさん集められている。



4 とせの墓
江戸屋再興に献身した女性・とせの墓。



5 一心院
「とせ」の墓がある。境内にはみちびき地蔵、板倉地蔵、庚申塔などがある。



6 常夜燈
宝昌寺への道の曲がり角にある。「両宮常夜燈」「五穀成就」「村内安全」と刻まれている。火袋の所に時計が置かれている。



9 宝昌寺
境内には石塔や五輪塔の断片がいくつもある。



7 祠
常夜燈の向かい側。中には何も祀られていないように見える。



10 石塔
宝昌寺境内。他にも五輪塔の断片などがある。



8 地蔵
宝昌寺の門前横の建物の中に地蔵が祀られている。



11 道標
一色との分かれ道(電柱の下)に立つ50センチほどの道標。「右巡見左一色道」と刻まれている。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等

- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

この部分は
8・9 ページを
ご覧ください

(4) 東庄内町

(亀山市川崎町～鈴鹿市東庄内町)

地図内凡例

-  道標など
-  常夜灯
-  神社・仏閣・城址など
-  地蔵など
-  句碑
-  その他文化資産等
-  まちかど博物館
-  博物館・資料館
-  まちがえやすい分かれ道
-  バス停
-  トイレ



4 姫塚
文明年中のもの。某皇女を葬ったという伝説が残る。工場前の畑の中にある塚で、「史跡 姫塚古墳群」の標柱が立つ。



5 巡見新道と巡見旧道の分かれ道
巡見旧道は四つ辻から500メートルほど北西に進んだところにある豊店付近で街道から右にそれている。



3 原四つ辻
亀山市と鈴鹿市の境。



2 常夜燈
街道が原四つ辻へ向けて左折する角の正面。自然石が用いられている。



1 ボトルクラフトポンプ 雑貨手作りの店

(5) 伊船町 (鈴鹿市伊船町)



9 常夜燈
天保13年(1842)のもの。集落中央の西より。「両宮常夜燈」「村内安全」「五穀成熟」等と刻まれている。



8 道標
伊船の集落に入った街道が最初に右折する場所に立つ。「右こものみち 左さとみち」と刻まれている。



7 六地藏
ここで旧街道は国道306号と合流する。



2 粟島神社
粟島大明神。水田の中にあ
り、下の病に効験があるとい
う。御幣川(おんべかわ)
が氾濫した際に流されてきた
という少名彦命を祀る。



3 真弓家墓地の巡見新道
国道306号のすぐ右上。街道
の両側に伊船の墓地がある。
左側に代々伊船村の庄屋
であった真弓家の墓がある。



6 龍ヶ池
お龍という娘を人柱にした
という伝説が残る。池の南
側を通る道沿いに「お龍之
霊碑」と刻まれた石碑が立
つ。



4 長左衛門の墓
龍ヶ池の開削、新田開発等
により地元では神と祀られ
た。

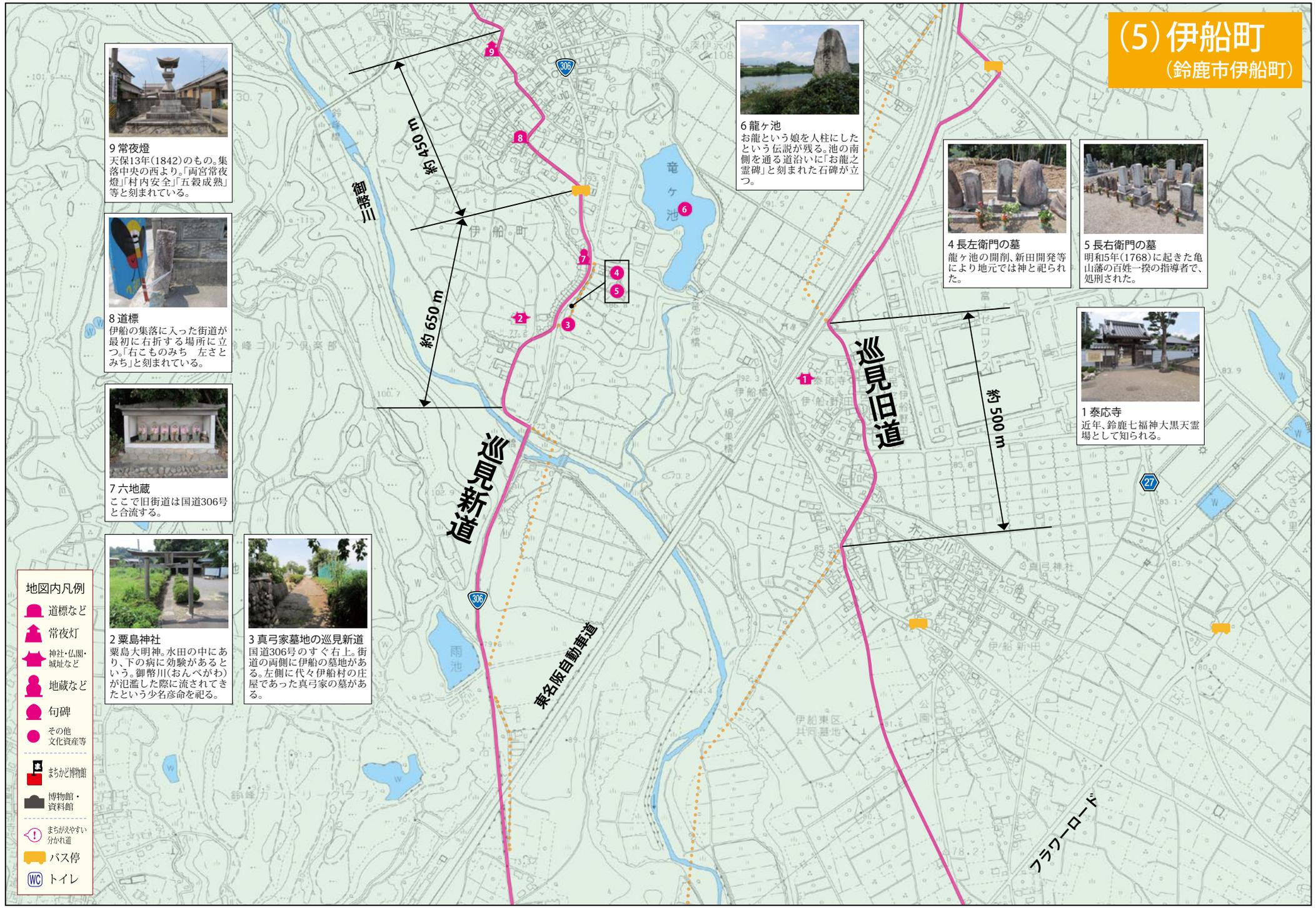


5 長右衛門の墓
明和5年(1768)に起きた亀
山藩の百姓一揆の指導者で、
処刑された。



1 泰応寺
近年、鈴鹿七福神大黒天霊
場として知られる。

- 地図内凡例**
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



(6) 長沢町・A

(鈴鹿市追分町～長沢町)

この部分は
18・19ページを
ご覧ください



7 乗願寺
菅原神社の向かいで、街道
右側にある。慶長年間(1596
～1615)に真弓三右衛門治
直の開基創立によるといわ
れる。現在は真宗高田派。



6 菅原神社
養泉寺の北にある伊船の氏
神。



5 伊船の巡見新道
菅原神社と乗願寺の間を通
る。



9 長瀬神社一ノ鳥居
鳥居をくぐって長瀬神社ま
で茶畑の中をまっすぐ参道
がのびている。



10 道標
長瀬神社鳥居脇。「右巡見
左水沢道」と刻まれている。



8 道標
街道が右に曲がる交差点に
立つ、自然石の道標。「右た
げ口」と刻まれている。下
部が少し埋もれているよう
である。



1 養泉寺
曹洞宗の寺で境内を囲む頑
丈な石垣が城壁のように見
える。応仁元年(1467)に山
名宗全により焼失したとい
う。天明8年(1788)の巡見
使が昼食をとったと考えら
れ、文化11年(1814)の伊能
忠敬の別手の測量隊がこの
寺に宿泊している。長い参
道は右折し、この左角には
馬が埋められたという伝説
がある。



4 石碑
街道と長沢新田の集落の中
への道の分かれ道に立つ。
文字が刻まれているようだ
が、風化してて全く読め
ない。



3 椎の古木
街道の西側にあり、幹が半
分朽ちている。大変古い木
であるという。

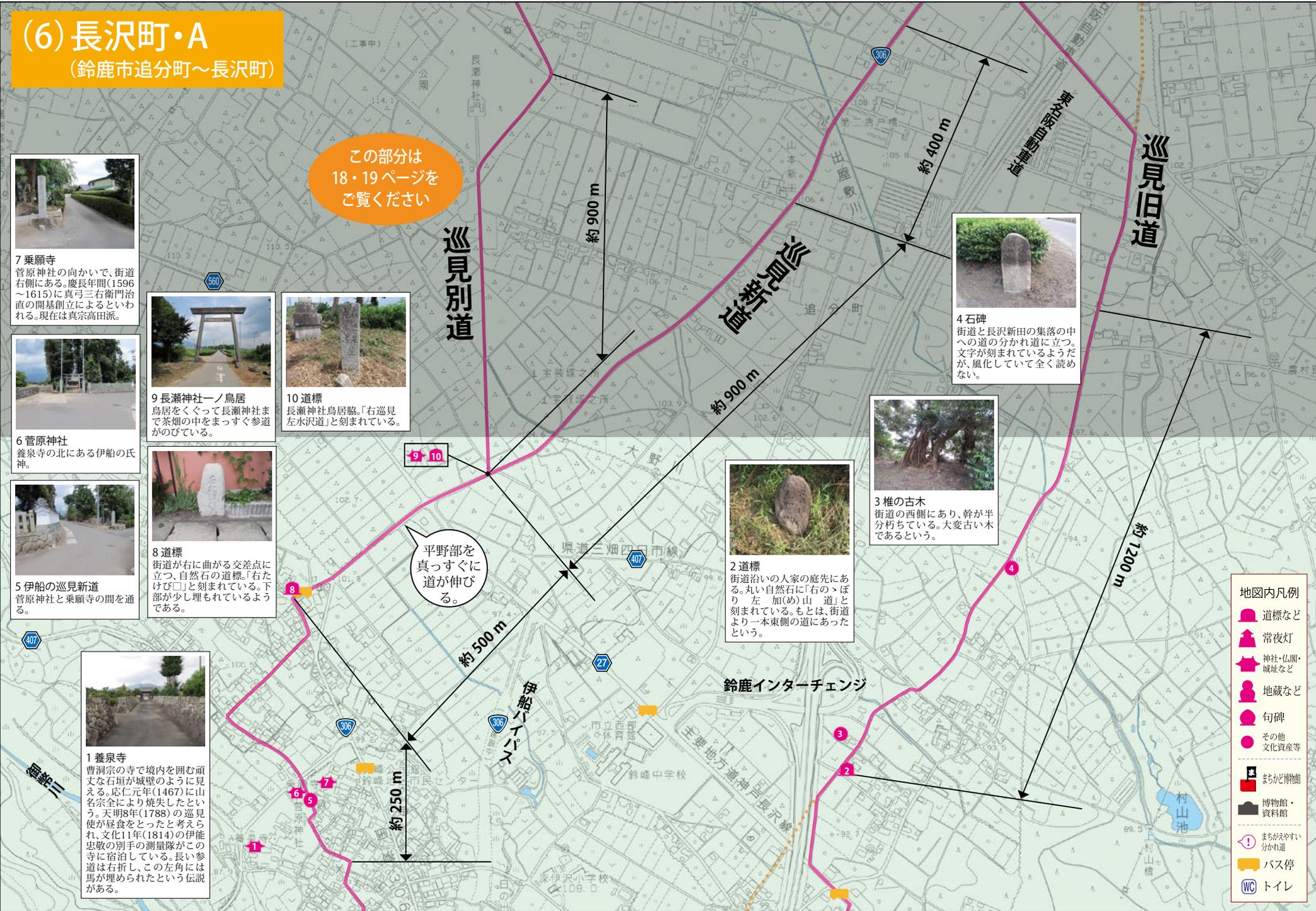


2 道標
街道沿いの人家の庭先にあ
る。丸い自然石に「右の>ば
り左加(め)山道」と
刻まれている。もとは、街道
より一本東側の道にあった
という。

巡見別道

巡見旧道

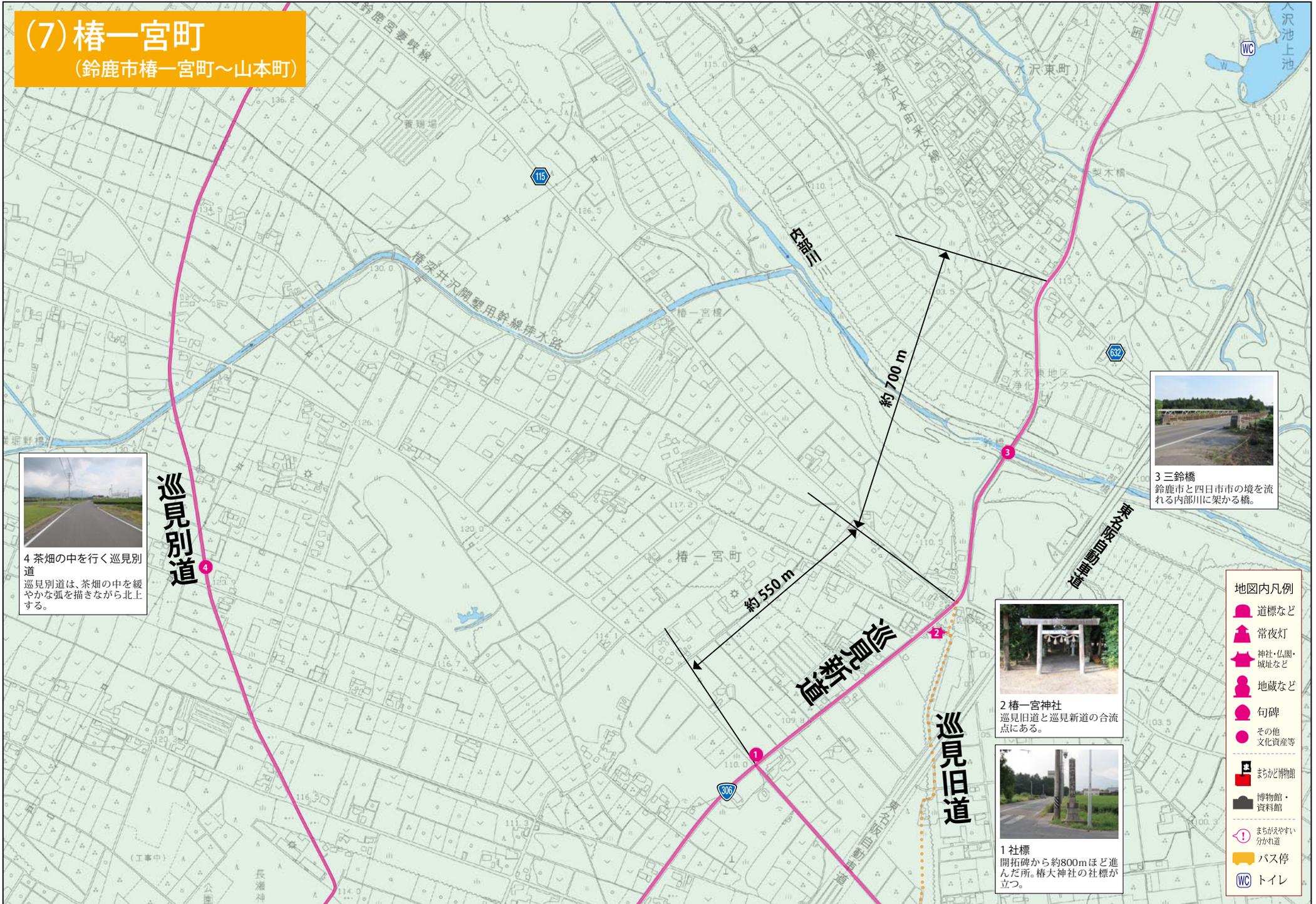
平野部を
真っすぐに
道が伸びる。



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化遺産等
 - まちが博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(7) 椿一宮町

(鈴鹿市椿一宮町～山本町)



4 茶畑の中を行く巡見別道
巡見別道は、茶畑の中を緩やかな弧を描きながら北上する。



3 三鈴橋
鈴鹿市と四日市市の境を流れる内部川に架かる橋。



2 椿一宮神社
巡見旧道と巡見新道の合流点にある。



1 社標
開拓碑から約800mほど進んだ所。椿大神社の社標が立つ。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(8) 水沢野田町

(四日市市水沢野田町～水沢町)

巡礼道



1 道標
大正3年(1914)のもの。街道が水沢野田町の集落に至り、左折する所に立つ、30cmくらいの道標。「右大久保左 深伊瀬」「大正三年□□田中」と刻まれている。



2 四日市坂
野田町の東端を北へ下る坂。雑草に覆われていて道は消えかかっている。内部川は井堰の上を歩いて渡れる。



4 野田の巡見道
田んぼの畦道となっている。



5 東保林の巡見道
茶畑を東に進む街道。川から北へのびた街道が、急カーブをえがきながら段丘の上へ続いている。木立の間の細くて薄暗い道。



6 茶畑の中の街道



3 東馬取・西馬取
川に添ってのびる狭い水田。

増水していなければ歩いて渡れる



8 鎌谷川
もとは青木川と呼ばれ、7メートルほどの川幅であった。今も川筋は変わっていない。この川の南側で巡見新道と巡見別道が合流する。



7 松の木立
街道の東約100メートルほどのところ。江戸時代中頃の堂ヶ山村と水沢村の因縁深い野境争論の証で、松の木立が一直線につらなっている。



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 道標など
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(9)水沢町

(四日市市水沢町～桜町)



4 まんぼ

鈴鹿山脈の麓の扇状地に分布する縦穴を持つ地下水路(横井戸・暗渠)。岐阜県でも見られるが三重県北部に特に多く見られる。この水路の構造は、イラン等で見られるカナートに似ている。水利の努力がうかがわれる。



5 諸戸野道

西野・野畑の集落から約200メートルくらいのところ。畑の中を通る細い地道で、昔は市道であったという。



3 四ツ谷橋

足見川に架かる橋。橋の下には「まんぼ」がある。当時の橋は下流20メートルくらいのところに架かっていた。



2 四ツ谷の巡見道

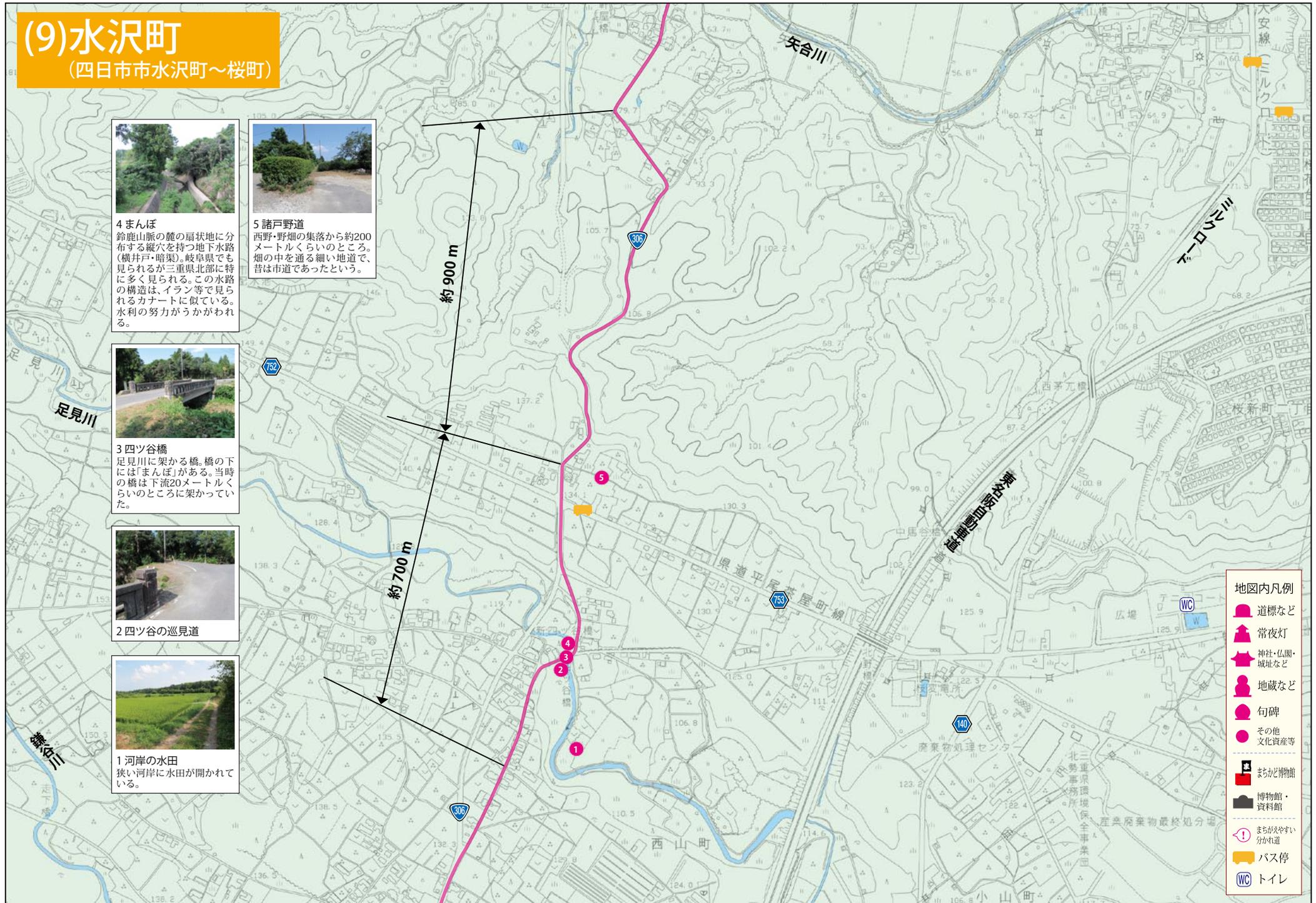


1 河岸の水田

狭い河岸に水田が開かれている。

約900 m

約700 m



地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

(10) 宿野

(四日市市桜町～菰野町宿野)



4 宿野峠
東側に野面の石積みがわずかに残る。天明8年(1788)に巡見使を迎えた菰野藩は、この峠にお茶場を設けて接待したという。



3 宿野峠への道
乾谷の交差点を過ぎると道は上り坂になる。このあたりで旧街道は現在の道より西へ50メートルほど迂回し、竹藪と杉木立の間を抜けて宿野峠へ遡っていたというが、道筋は見つからない。



2 弁天・山の神
乾谷公会所横。弁天と山の神が祀られている。



1 坊主尾辻の道標
矢合川をすぎて約200メートルの交差点脇(乾谷の交差点)。乾谷公会所前。「右杖左こもの」と刻まれている。



8 宿野西城跡
神社の上の八岡に中世の砦跡・宿野西城跡がある。



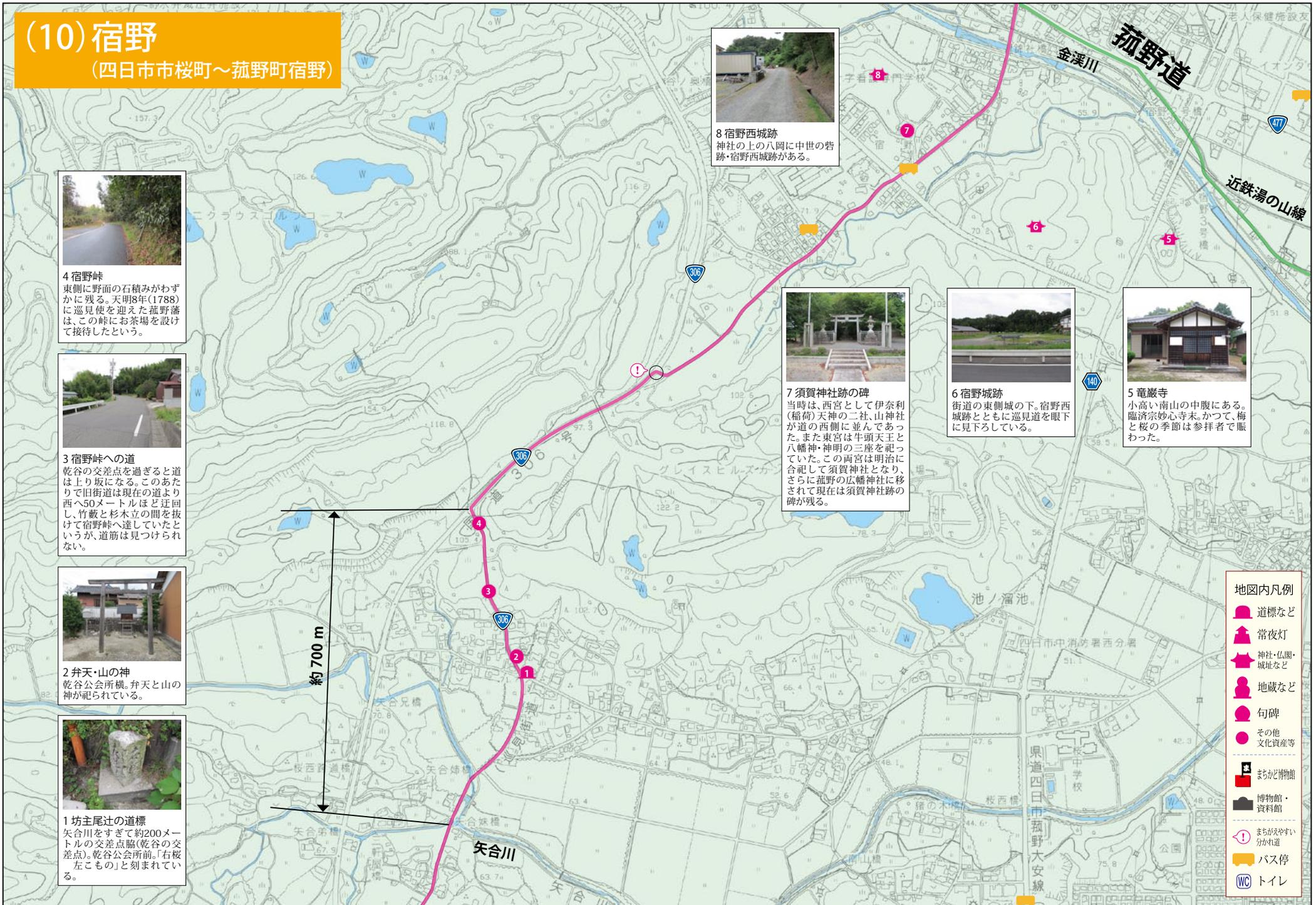
7 須賀神社跡の碑
当時は、西宮として伊奈利(稲荷)天神の二社、山神社が道の西側に並んであった。また東宮は牛頭天王と八幡神・神明の三座を祀っていた。この両宮は明治に合祀して須賀神社となり、さらに菰野の広幡神社に移されて現在は須賀神社跡の碑が残る。



6 宿野城跡
街道の東側城の下。宿野西城跡とともに巡見道を眼下に見下ろしている。



5 竜巖寺
小高い南山の中腹にある。臨濟宗妙心寺末。かつて、梅と桜の季節は参拝者で賑わった。



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(11) 菰野

(菰野町宿野～潤田)



13 山口誓子句碑



16 札の辻
東木戸の付近に代官所が設けられ、代官所の東側に巡見道に面して高札場が設けられていた。このあたりを札の辻という。



21 五郎兵衛地蔵



25 常夜燈
明治11年(1878)のもの。野面石を組み合わせた立派な常夜燈。「両宮常夜燈」明治十五年献上宮守中」と刻まれている。潤田村の春日神社の氏子と宮守(青年)が村はずれに建立したものの。



14 瑞龍寺
東町の中心部。境内に石地藏がある。毎年8月24日の夜は地藏盆と呼ばれ、縁日が催され、多くの人が出て賑わう。



17 問屋
札の辻の向かいに人馬・飛脚を扱う問屋があった。



22 広幡神社のお旅所
毎年10月1日、本宮から庄部お旅所へ御輿の渡御行事が行われる。境内に土俵がある。



15 石地藏
宝永3年(1706)のもの。不破包斎とその妻・娘の奇遊した地藏。瑞龍寺の境内にある。



18 道標
「石ゆの山道」と刻まれている。樋の口の橋詰にあったものを県道新設の際、南から現在地へと移設した。



23 庄部毘沙門天
庄部橋南側の街道の東側。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



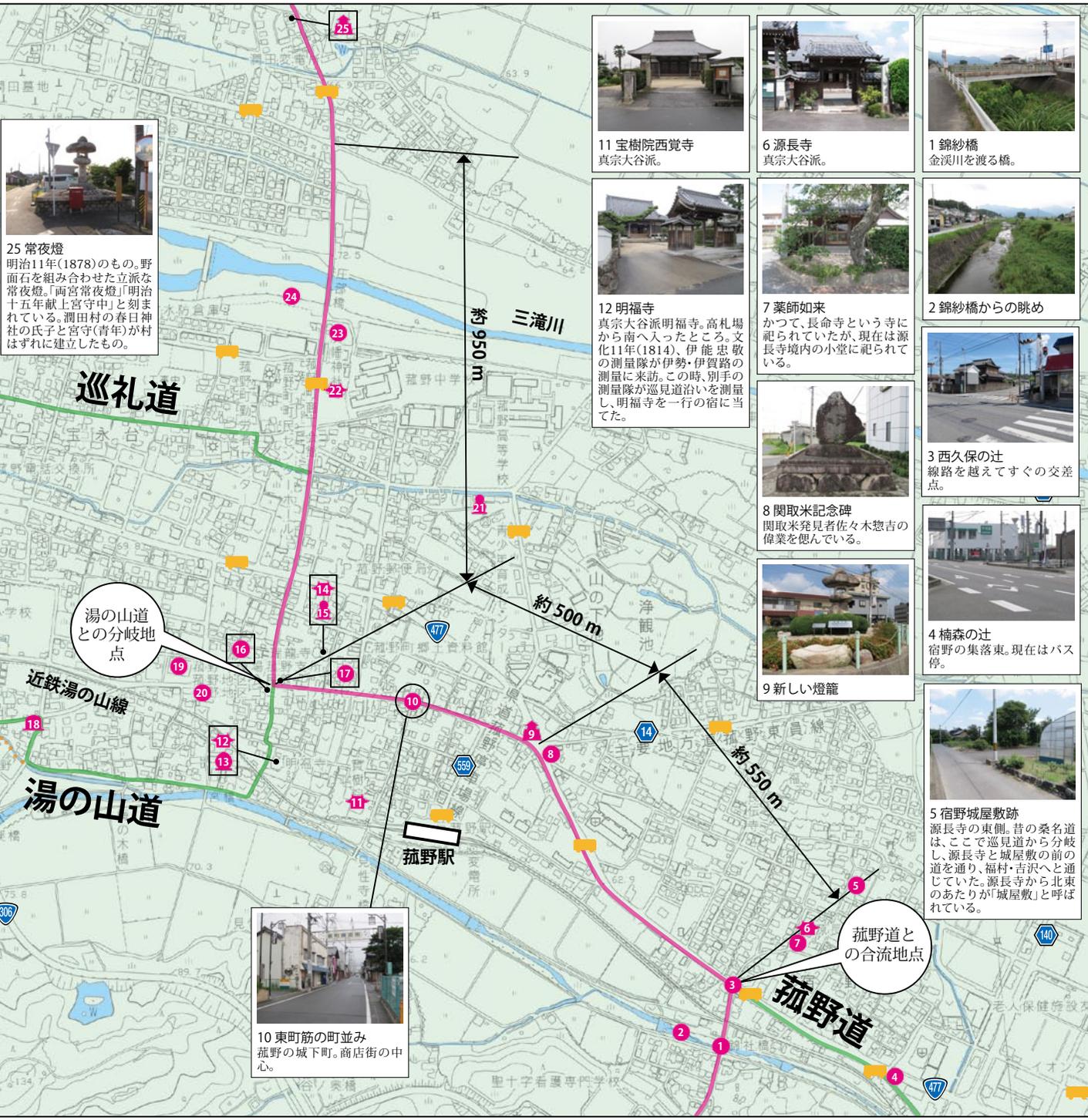
19 藩の郷会所跡
菰野領内十六カ村の庄屋村役人の寄り合う場であった。(現在の菰野支所)



24 三滝川堤防
昭和20年頃までは、水防用の赤松の保安林が川沿いに続いていたが、乱伐と松喰虫の被害により、今はない。また、清水・西庄部のあたりの堤防は、本堤の内側に笹堤と称する水割ねの堤が設けられ、更に副堤が本堤と同規模で築かれ、洪水を防ぐ備えがあった。



20 日下部家の柿の木



11 宝樹院西覚寺
真宗大谷派。



6 源長寺
真宗大谷派。



1 錦紗橋
金狭川を渡る橋。



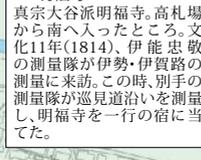
12 明福寺
真宗大谷派明福寺。高札場から南へ入ったところ。文化11年(1814)、伊能忠敬の測量隊が伊勢・伊賀路の測量に来訪。この時、別手の測量隊が巡見道沿いを測量し、明福寺を一行の宿に当たった。



7 薬師如来
かつて、長命寺という寺に祀られていたが、現在は源長寺境内の小堂に祀られている。



2 錦紗橋からの眺め



3 西久保の辻
線路を越えてすぐの交差点。



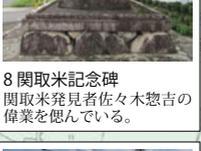
8 関取米記念碑
関取米発見者佐々木惣吉の偉業を偲んでいる。



4 楠森の辻
宿野の集落東。現在はバス停。



9 新しい燈籠



5 宿野城屋敷跡
源長寺の東側。昔の桑名道は、ここで巡見道から分岐し、源長寺と城屋敷の間の道を通り、福村・吉沢へと通じていた。源長寺から北東のあたりが「城屋敷」と呼ばれている。



10 東町筋の町並み
菰野の城下町。商店街の中心。

巡礼道

湯の山道
との分岐地点

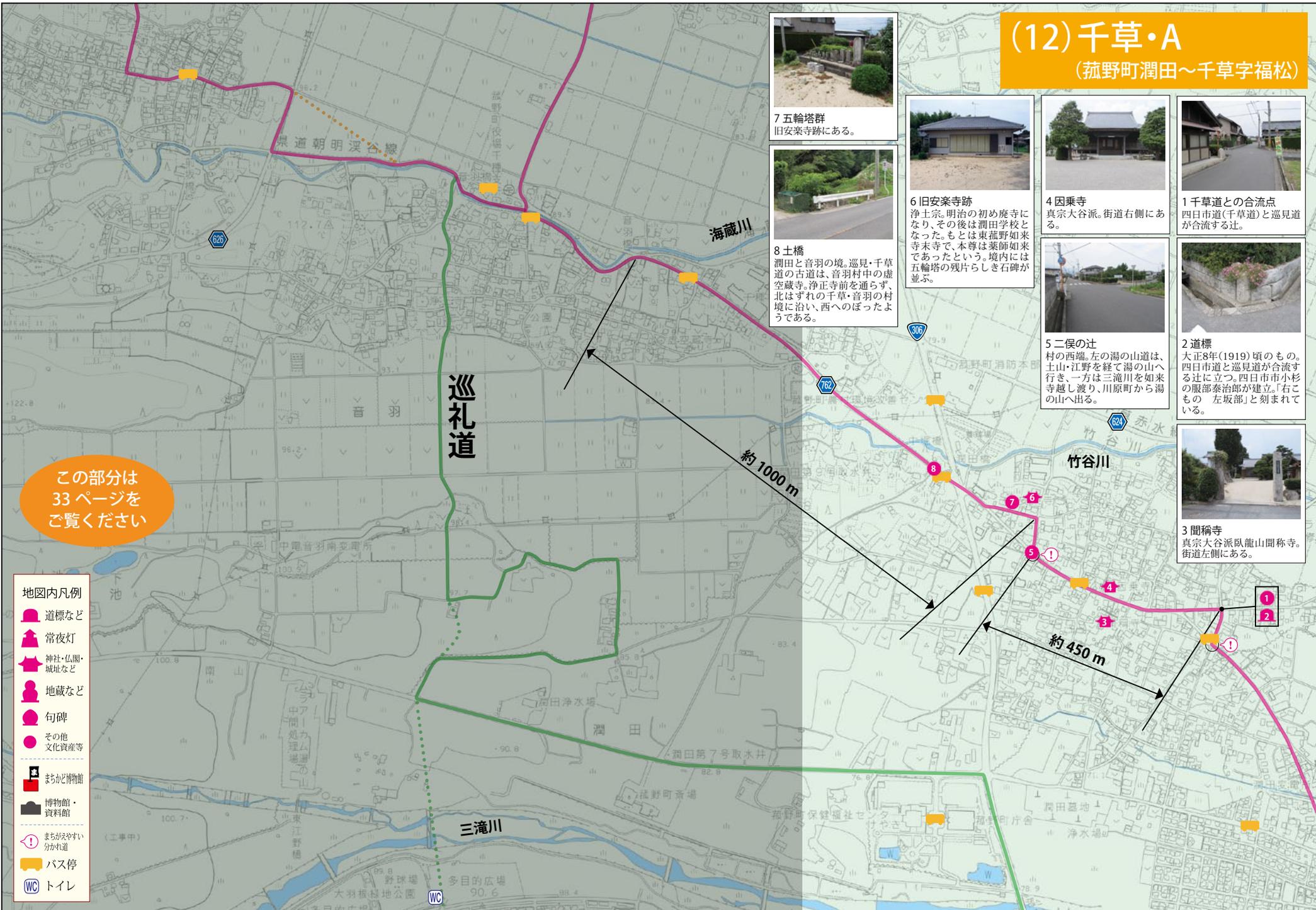
湯の山道

菰野駅

菰野道との合流地点

菰野道

(12) 千草・A (菰野町潤田～千草字福松)



この部分は
33 ページを
ご覧ください

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



7 五輪塔群
旧安楽寺跡にある。



8 土橋
潤田と音羽の境。巡見・千草道の古道は、音羽村中の虚空蔵寺、浄正寺前を通らず、北はずれの千草・音羽の村境に沿い、西へのぼったようである。



6 旧安楽寺跡
浄土宗、明治の初め廃寺となり、その後は潤田学校となった。もとは東菰野如来寺末寺で、本尊は薬師如来であったという。境内には五輪塔の残片らしき石碑が並ぶ。



4 因乗寺
真宗大谷派。街道右側にある。



1 千草道との合流点
四日市道(千草道)と巡見道が合流する辻。



5 二俣の辻
村の西端。左の湯の山道は、土山・江野を経て湯の山へ行き、一方は三滝川を如来寺越し渡り、川原町から湯の山へ出る。



2 道標
大正8年(1919)頃のもの。四日市道と巡見道が合流する辻に立つ。四日市市小杉の服部泰治郎が建立。「右こもの左坂部」と刻まれている。



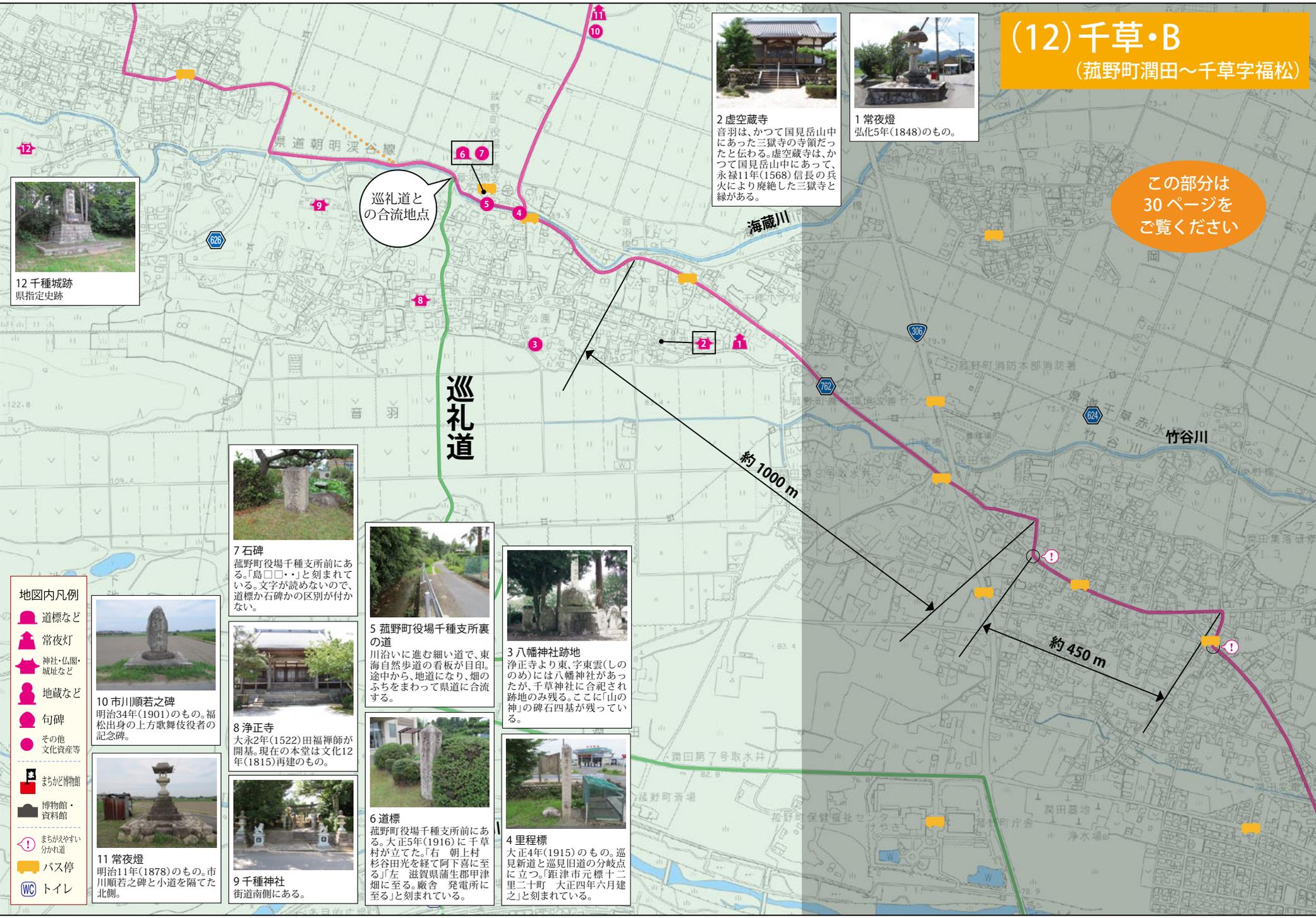
3 間稱寺
真宗大谷派臥龍山間稱寺。街道左側にある。



1 2

(12) 千草・B

(菰野町潤田～千草字福松)



12 千種城跡
県指定史跡

巡礼道との
合流地点



2 虚空蔵寺
音羽は、かつて国見岳山中にあった三獄寺の寺額だったと伝わる。虚空蔵寺は、かつて国見岳山中にあって、永禄11年(1568)信長の兵火により廃絶した三獄寺と縁がある。



1 常夜燈
弘化5年(1848)のもの。

この部分は
30 ページを
ご覧ください

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



10 市川順若之碑
明治34年(1901)のもの。福松出身の上方歌舞伎役者の記念碑。



11 常夜燈
明治11年(1878)のもの。市川順若之碑と小道を隔てた北側。



7 石碑
菰野町役場千種支所前にある。「島□□・□」と刻まれている。文字が読めないため、道標か石碑かの区別がつかない。



5 菰野町役場千種支所裏の道
川沿いに進む細い道で、東海自然歩道の看板が目印。途中から、地道になり、畑のふちをまわって県道に合流する。



6 道標
菰野町役場千種支所前にある。大正5年(1916)に千草村が立てた。「右 朝上村 杉谷田光を経て阿下喜に至る」「左 滋賀県蒲生郡甲津畑に至る。庵倉 発電所に至る」と刻まれている。



3 八幡神社跡地
浄正寺より東、字東雲(しののめ)には八幡神社があったが、千草神社に合祀され跡地のみ残る。ここに「山の神」の碑石四基が残っている。



4 里程標
大正4年(1915)のもの。巡見新道と巡見旧道の分岐点に立つ。「距津市元標 十二里二十町 大正四年六月建之」と刻まれている。



8 浄正寺
大永2年(1522)田福禪師が開基。現在の本堂は文化12年(1815)再建のもの。



9 千種神社
街道南側にある。

(13) 千草字奥郷

(菰野町千草字奥郷～杉谷)



13 道標
七つ塚古墳の北側の桜の木の下。「右尾高道」と刻まれている。



12 七つ塚古墳
墓地の南側。看板が立つ。ふだんは草に覆われていて見つけにくい。東側を通るといふ古道の痕跡はほとんどない。



11 踏み分け道の痕跡
巡見旧道が朝明川を渡った対岸。ここから「右尾高道」の道標までの道はたどれない。この場所にのみ、街道と思われる道が残る。古道は七つ塚古墳の東側を通るといふ。



10 朝明川



7 三岳寺の鼓楼
三岳寺の門前。中の太鼓の墨書に「勢州三重郡千種県冠峰山浄安寺全擁海貞享五年(1688)戊辰歳二月下旬」と記されている。



8 三岳墓地
千草の集落を抜けて田んぼに出た街道の左側。以前は山の斜面の墓地だったが、現在ではきれいに整備されている。



6 三岳寺
この寺は、もと浄安寺という名前であったが、宝永のころに三岳寺と改称している。



9 松林・雑木林
千草を出て朝明川に向かう途中にある。



5 常夜燈
明治25年(1892)のもの。千草村の石工10人が鑿をふるったもので、地上6.74mもの高さがあり、村の自慢であった。



4 金比羅神社
奥郷集落内。



2 寒椿「獅子頭」
街道の右側、馬島家の寒椿。「獅子頭」という名で呼ばれ、県の天然記念物に指定されている。毎年11月中旬頃より咲き始め、3月頃まで美しい花をつける。



3 道標
奥郷集落内。倒れており、「右」「左」「辻」とのみ読める。



1 鹿島神社
福松集落内。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(14) 杉谷・A

(菰野町杉谷)

この部分は
38・39ページを
ご覧ください



8 五輪塔群
尾高観音境内にある。



9 天春静堂句碑



6 尾高観音(引接寺)
伊勢西国三十三所観音霊場元25番札所、引接(いんじょう)寺の跡。同寺は明治に廃寺となり、現在は慈眼寺の奥の院となっている。本尊は千手観音立像、脇侍に役行者像を祀る。六角堂は嘉永4年(1851)に建立された。



4 道標
享保15年(1730)のもの。尾高観音の参道入り口と身代わり不動への道の分岐点に立つ。「右 尾高観音道」と刻まれている。



5 尾高観音参道
檜の木立がにつき、登っていくと尾高観音の六角堂の屋根が見える。



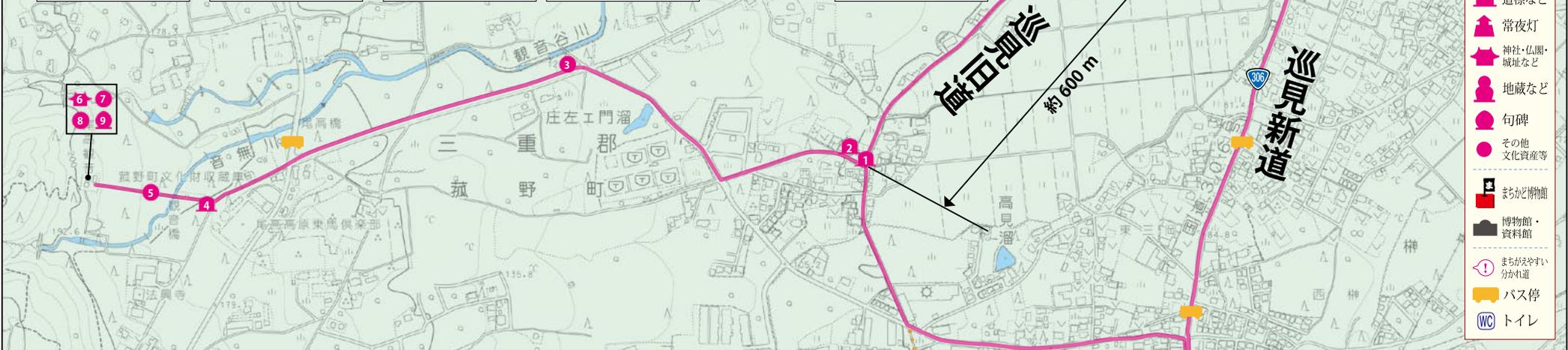
3 石柱
「尾高山千手観世音菩薩」と刻まれている。



2 道標
延宝の道標の10mほど西に立つ。「拾式・・・」と刻まれている。



1 道標
延宝8年(1680)のもの。尾高道を横断した辻の西北に立つ古い道標。文字は風化して読みにくい。「尾高観音道は十二町上 延宝八庚申歳三月十八日」と刻まれている。この辻を左に進むと尾高観音がある。



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(14) 杉谷・B

(菟野町杉谷)



3 手水鉢
文化13年(1816)桜地蔵の前。



6 極楽橋
杉谷川にかかる橋。ここより杉谷の集落に入る。



7 慈眼寺
尾高観音の本寺。杉谷集落の西南にある。伊勢西国三十三所観音霊場元26番札所の久国山観音寺は、この寺の前身。



2 桜地蔵
高さ約95cm。小堂の中に祀られている。



5 杉谷野・田光野の眺め
又八稲荷からのながめ。



8 慈眼寺本堂の額
白く、あざやかに「観音寺」と書かれている。



1 又八稲荷社
文化10年(1813)に杉谷の又八が京都伏見稲荷から勧請した。



4 増田園芸



13 杉谷遺跡
平安末期から鎌倉初期にかけての大規模な墓地跡。当時は八角堂や阿弥陀の他、数多くの堂塔があったといわれている。県指定史跡。



15 熊野神社
翠巖寺の裏側。



14 翠巖寺
真宗大谷派翠巖寺。寺の西側の丘陵は杉谷城跡であるという。



12 忠魂碑
街道から熊野神社への道が分岐するところにある。熊野神社の社標の西。



11 熊野神社の社標
商店の前を左に折れると熊野神社の社標前になる。ここは天白神社の社跡でもある。

巡礼道は巡見道と合流したまま、こののち藤原町坂本まで続く。



9 道標
昭和4年(1929)のもの。街道左側。「左尾高山道 右切知道」昭和四年三月 増田善太郎と刻まれている。



10 里程碑
大正6年(1917)のもの。「三重県庁十四里四町・・・」大正六年十月」等と刻まれている。このあたりで、巡見旧道と巡見新道が合流する。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

この部分は
36・37ページを
ご覧ください

約600m

巡見新道

(15) 田光・A

(菟野町田光～田口)



20 祠
多比鹿神社境内。社殿に向
かって左側の奥。



19 狛犬
多比鹿神社境内。社
殿に向かって左側に
ある親子の狛犬。



18 多比鹿神社
延喜式内社。この周辺はか
つての朝明郡田光郷の中
心地といわれる。永享6年
(1434)の八風大明神棟札
や、嘉永4年(1851)の高札
が残るといふ。田光城跡



17 多比鹿橋
田光川にかかる。



8 榎の大木
巡見道と八風道の交
差点の南西角。家々
の屋根よりも高く、
目立つ。



9 里程標
巡見道と八風道の交
差点の北西角。



10 高札場跡
交易市場跡広場にある。



11 力石
交易市場跡広場にある。重
さ別に3つの力石が並んで
いる。



4 乗得寺
山門前には駒よせの広場が
ある。



5 駒よせの広場
乗得寺山門前。



3 九品寺
乗得寺の奥の左手。



2 光泉寺
田光の盆踊り唄に「寺は三ヶ
寺 鋳物師屋二軒」と唄われ
る三ヶ寺のひとつ。寺の前の
諸岡氏宅の先祖は鋳物師で
あったという。



1 忠兵塚
江平の北はずれに工場があ
り、工場の北側、道を挟んだ
田畑の隣にある。



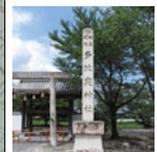
6 大橋呉服店・スイーツ
カフェMei



7 田光札の辻
八風道と巡見道との合流
点。里程標は隣の交易市場跡
に移されている。



13 郷蔵跡
高札場の西。



14 社標
多比鹿神社の社標。



15 轆竿を立てる穴
地面に埋められた石に、四
角い穴が二つ並んで掘られ
ている。

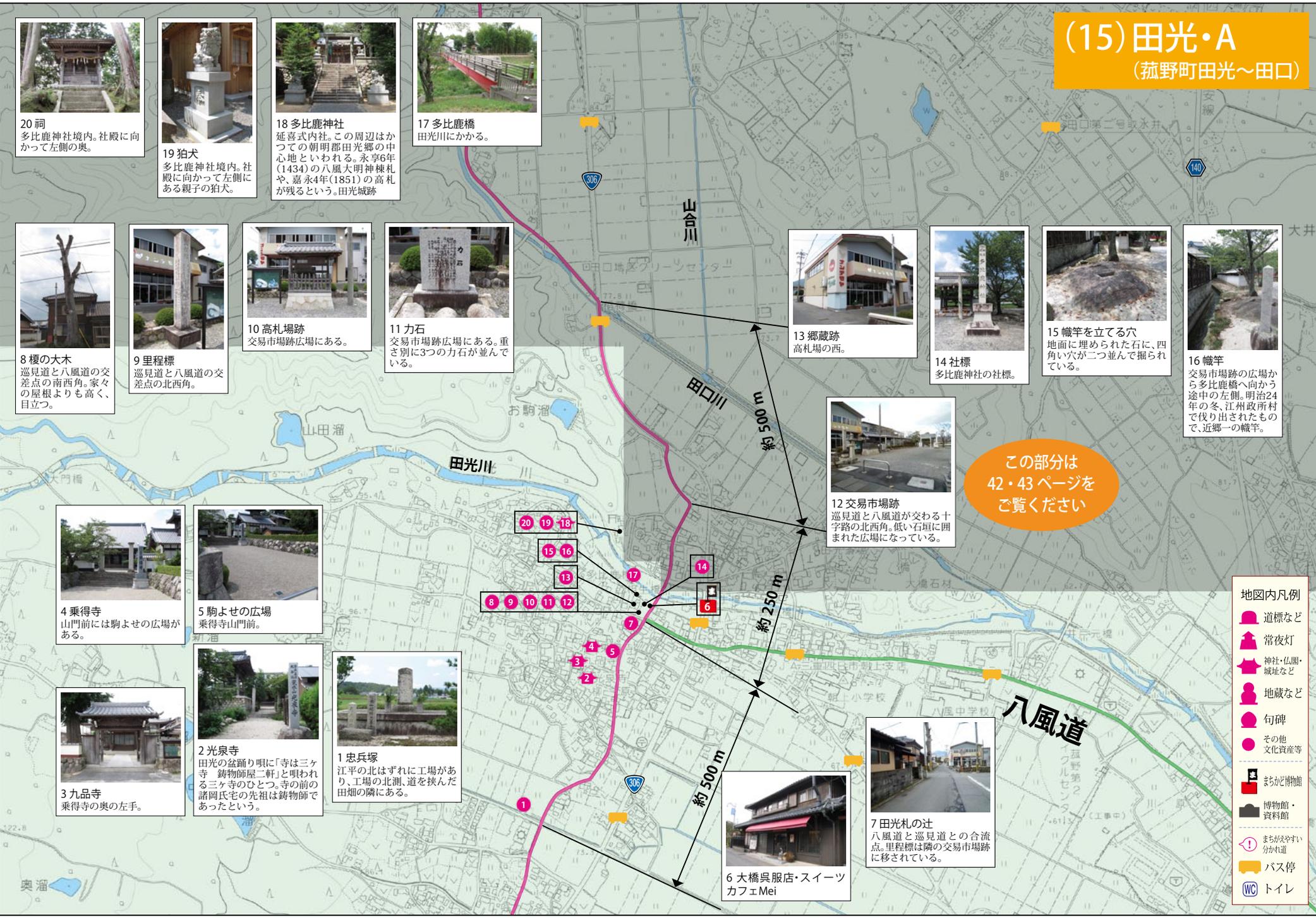


16 轆竿
交易市場跡の広場か
ら多比鹿橋へ向かう
途中の左側。明治24
年の冬、江州政所村
で伐り出されたもの
で、近郷一の轆竿。



12 交易市場跡
巡見道と八風道が交わる十
字路の北西角。低い石垣に囲
まれた広場になっている。

この部分は
42・43 ページを
ご覧ください



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(15) 田光・B

(菰野町田光～田口)



11 善教寺坂
善教寺の横を通る坂。



10 善教寺



9 穂積神社跡
街道右側。グラウンドの隅にある。



8 驛
田口川に沿い驛が北にのびる。



7 稻荷橋
街道は、田光城の腰を大きくまわって、田口の入り口の稲荷橋を渡る。



2 石碑
昭和15年のもの。相生橋を渡った街道右側。「紀元二〇六〇〇記念・・・」と刻まれている。



1 地藏堂
多比鹿橋の近く。



5 墓石
街道左側。自然石でつくられており、文字等が刻まれている様子はない。



3 首塚
田光城の下、街道の右手の字城山。道心塚がある。



6 シデコブシ自生地
国指定天然記念物



4 道心塚
首塚にある野面石の墓石。墓碑は弘化3年(1846)のもので、「嗚此道心因子之墓」と刻まれている。因道心は田光城主梅戸氏の家臣で、支城の大井田城を預かっていたが、讒言を受けて死んだと伝えられている。

この部分は
40・41 ページを
ご覧ください



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(16) 宇賀

(菰野町田口～いなべ市大安町石樽南)



15 正善寺
永正元年(1504)、西村(現在の四日市市旧字谷口)に創建。永祿の末から天正にかけての信長と本願寺との戦いで焼失した。宇賀村に門徒がいたことから天正4年(1576)現在の地に移り、正徳元年(1711)に現在の本尊と寺号を賜わった。



14 菟上神社
池の西の山裾にある。江戸時代には宇賀神社といい、菟上神社と妙見宮を相殿としてまつっていた。延喜式内朝明郡二十四座のひとつで、菟上王(うなかみのみこと)と若倭根子彦大毘々命(わかやまとねこひこおびびのみこと=開化天皇)を祀る。



13 宇賀溜
街道左側、堤に上ると向こう側に菟上神社が見える。



12 菟上神社の社標と鳥居
もとは、堤の上の道を通って神社に参詣した。



4 石碑
芭蕉溜の約100メートル西。文字が刻まれているのはわかるが読めない。道標か町石らしい石柱である。



3 常夜燈
天保8年(1837)のもの。大鳥居前。町石のそばに2基並んでいる。



2 町石
文化7年(1810)のもの。大鳥居前。「福王山毘沙門天堂是ヨリ廿一丁」と刻まれている。自然石。



1 福王の大鳥居
鳥居の前に常夜燈や町石などがある。



8 標柱
「従是西行庵旧跡約一町」と刻まれている。



11 西行橋
山合川(さんごうがわ)にかかる橋。



10 新溜
街道左側。街道ぞいに溜め池の堤がそびえる。



7 墓石
街道の右側で、道標と街道を挟んだ向かい側。「南無阿弥陀仏」と刻まれている。



9 西行法師の庵跡
標柱から西北にのぼった字梅ヶ丘にある。安政の頃、桑名の国学者黒沢翁満が揮毫した顕彰碑と、『山家集』の「伊勢のにしぶく山と申す所に侍りけるに庵の梅がかうばしくにほひけるを柴の庵によるよる梅の匂ひ来てやさしき方もあるすまひかな」と刻まれた歌碑がある。



6 道標
大鳥居前から北へ坂を登った所の四つ辻に立つ。「東田口新田 南田光」と刻まれている。



5 芭蕉溜
この周辺には「○○溜」という名前の溜め池が多い。

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

約1000m

(17) 石樽南・A

(いなべ市大安町石樽南)

この部分は
48・49ページを
ご覧ください



4 大井水
宇賀川の北岸の河岸段丘には、水田が開かれており、西と北に木の茂った段丘崖をめぐらす。この崖の中程に宇賀川の水を引いて石樽南・東・北の水田を灌漑する大井水が走る。



8 旧庄屋の屋敷の石垣
石橋を渡って台地上に出た道が20メートルほどで、左に曲がり、すぐまた右に曲がる曲がり角が旧庄屋の屋敷。



9 照光寺
街道の西側。伊勢三大寺のひとつであったと言われ、江戸時代には真宗本願寺派の中本山で、中世には二百余カ寺、江戸時代には二十数カ寺の末寺を擁していた。蓮如上人巡錫の地として毎年4月24・25・26日に宝物の開帳が行われ、多くの人出で賑わう。



7 大井水を渡る石橋
急坂を登ると石橋で大井水を渡り、台地上に出る。



3 石樽滝
大井水の左端に用水を落とす石樽滝がある。水が多いときには巡見道からも見えたという。



6 野田井水から左へ分かれる道
本来の巡見道だというのが、山裾に造られた急坂は大変狭い。



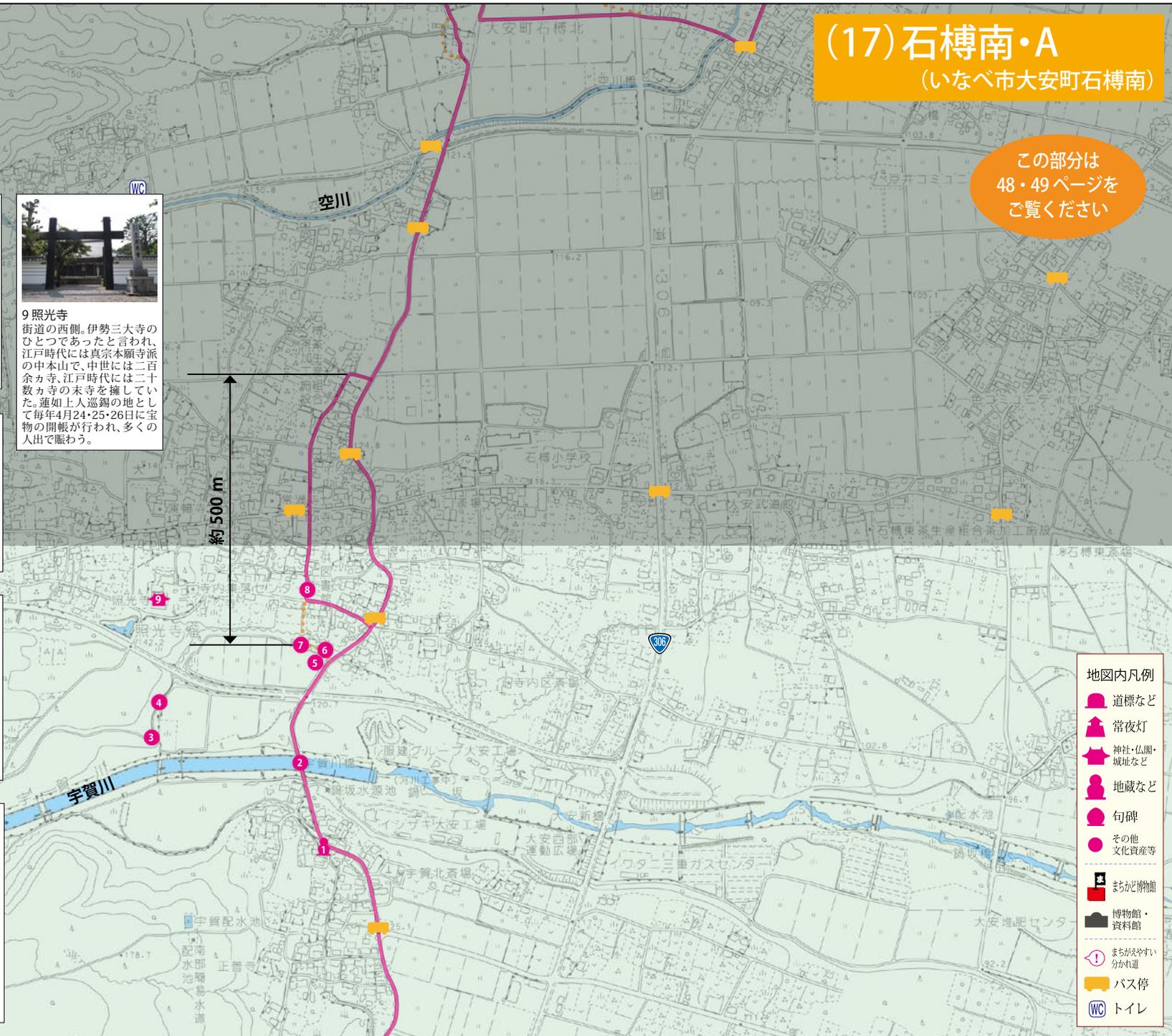
2 宇賀川橋
大正時代までの橋は、欄干の付いた土橋であったが、水害で流失した。この橋は、今の橋よりも低いところにかかっていた。



5 野田井水
水田の中央を走る用水。丹生川下村の城主野田田丸右京が開いたと伝えられる。『巡見街道見取り図』では、野田井水を越えたところで、道が二筋に分かれている。



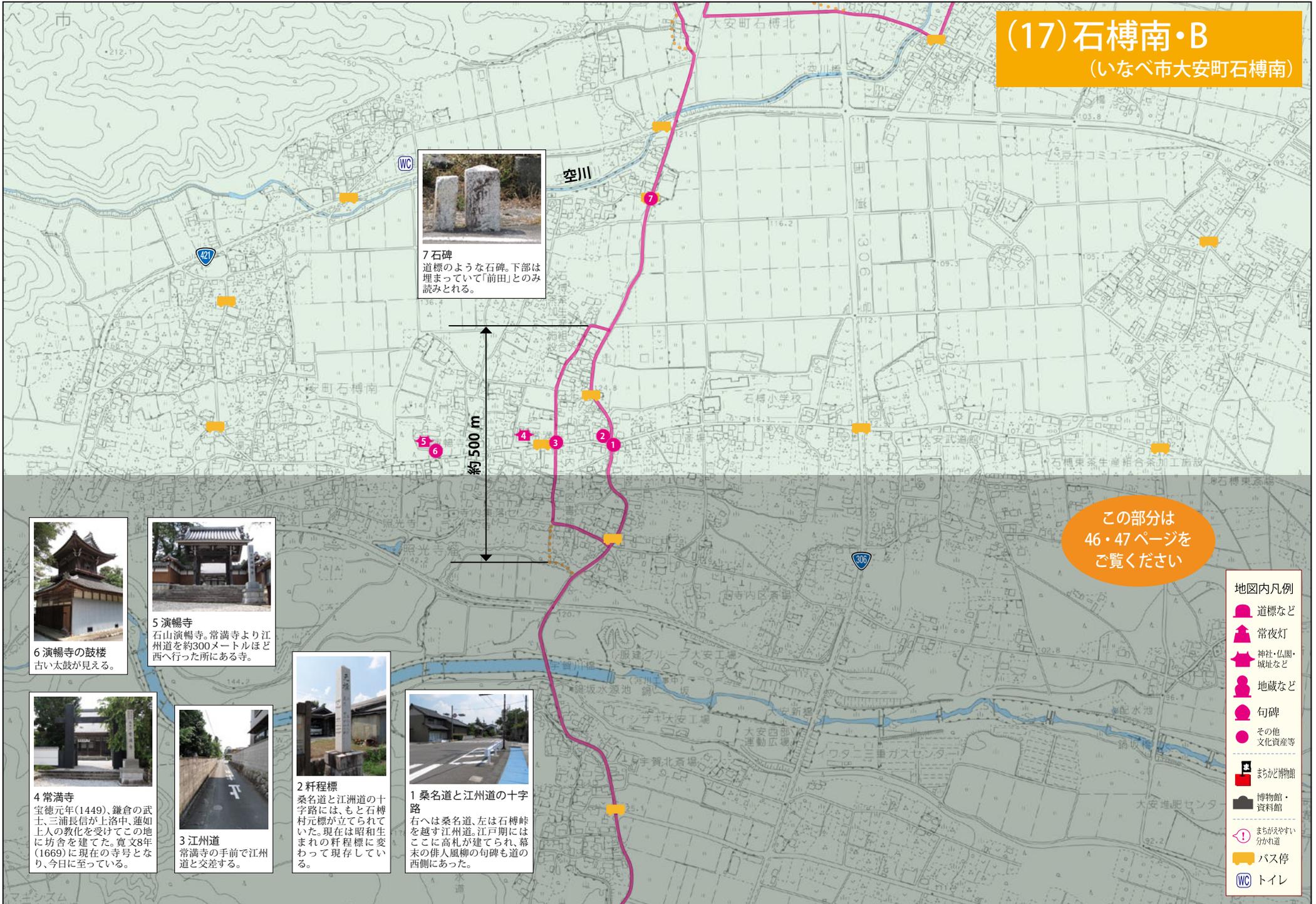
1 地蔵堂
昭和建立の新しい地蔵堂。



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(17) 石樽南・B

(いなべ市大安町石樽南)



7石碑
道標のような石碑。下部は埋まっていて「前田」とのみ読みとれる。

約500m

この部分は
46・47ページを
ご覧ください



6 演暢寺の鼓楼
古い太鼓が見える。



5 演暢寺
石山演暢寺。常満寺より江州道を約300メートルほど西へ行った所にある寺。



4 常満寺
宝徳元年(1449)、鎌倉の武士、三浦長信が上洛中、蓮如上人の教化を受けてこの地に坊舎を建てた。寛文8年(1669)に現在の寺号となり、今日に至っている。



3 江州道
常満寺の手前で江州道と交差する。



2 秆程標
桑名道と江洲道の十字路には、もと石樽村元標が立てられていた。現在は昭和生まれの秆程標に変わって現存している。



1 桑名道と江州道の十字路
右へは桑名道、左は石樽峠を越す江州道。江戸期にはここに高札が建てられ、幕末の俳人風柳の句碑も道の西側にあった。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちかど分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(18) 丹生川上・A

(いなべ市大安町石樽南～北勢町東村)

この部分は
52・53ページを
ご覧ください



5 石加神社
山の上にある。



4 専福寺
石加神社の森の麓。



3 石地藏
素朴な顔立ちをしている。
やはり、石仏かもしれない。



7 北山窯博物館



2 石地藏
巡見道から約200メートル
西の山の麓。右仏とも見える
石地藏がいくつか祀られて
いる。素朴な顔立ちをして
いる。



6 道標

大正13年(1924)のもの。街道が空川からまっすぐ続いてきた旧県道と交差するところ。カーブミラーの下。南面には「右三里村ヲ経テ楚原二通又 左山條ヲ経テ滋賀縣二通又」、東面には「右丹生川村ヲ経テ...」「左三重郡朝上村ヲ経テ菟野亀山二通又」とたくさん文字が刻まれている。



1 細い巡見道
巡見道は、広い道から左に別れ、小川に沿って続いている。現在は道が整備され当時の面影はない。



10 墓地
屋敷跡のある曲がり角から少し南にあった力士壺ヶ谷の墓が移されている。



11 川の堤とあぜを通る街道
幅が2メートルほどあり、巡見道の跡と確認できる。



8 道標

昭和2年(1927)のもの。菟野藩主土方雄氏が菟野へ移る前に住んでいたという館跡のある曲がり角右手。「右治田村ヲ経テ阿下喜二至ル」「左滋賀縣道...」など、たくさん文字が刻まれている。



9 空川にそってすすむ小道
街道は、人家の端で広い道と別れ、左へ折れて空川に沿った小道をすすむ。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(18) 丹生川上・B

(いなべ市大安町石樽南～北勢町東村)



6 正法寺山
左手の小高い山。中世には正法寺が威容を誇り、丹生川上城があったが、廃絶して遺構を残すのみ。



5 鴨神社の楠
鴨神社の路傍にある、信長が馬を繋いだという楠。



4 鴨神社
『延喜式神名帳』に記された式内社で、『大安寺伽藍縁起並流記資材帳』に鴨社の名前が見えることから、旧員弁郡で最も古い社であると言える。風格のある社殿で、10月20日に行われる火祭り行事や野火松明(やはたいまつ)は、近郷に聞こえている。



7 道標
街道が旧国道に合流し、約200メートルほどのところの左手にある小さな道標。ガードレールに隠れて見にくい。「左 奥村新町」と刻まれている。



3 創作絵馬博物館



2 五輪塔群
地藏堂の後ろ。多様な形の五輪塔がある。



1 地藏堂
丹生川上の集落に入ったところ。堂と真ん中の地藏尊は新しいが、納めてある板地藏は、この地にあった山ノ神の遺物らしく、古さを思わせる。堂の後ろには多種多様な五輪塔がある。

この部分は
50・51 ページを
ご覧ください

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(19) 東村・A

(いなべ市北勢町麓村～藤原町東禅寺)

この部分は
56・57 ページを
ご覧ください



9 円福寺の鐘楼
円福寺の境内にあり、
美しい彫刻が施されて
いる。



8 円福寺
街道右側。



6 道標
表忠碑前。高さ67cmほど。「
右阿下喜 左東藤原」二之
部弥太郎 妻に」と刻ま
れている。この道標はもと
加野の辻に立っていたが、
改修工事のため掘り起こさ
れ、ここに移された。



5 表忠碑
明治40年(1907)のもの。
東村墓地の東北角。



4 天聖観世音
墓地の片隅の道路沿いに
「天聖観世音」と刻んだ石碑
と石仏がある。



3 治田城跡登城口の案内
板
いなべ市指定史跡



2 藤田Nゲージ鉄道館



11 石仏
民家の前。



10 道標
ブロック塀の角の消
火栓の陰に立つ。北面に「左 菟野 亀
山」東面に「右 多賀
多良 阿下喜」西
面に「加茂神社」とい
ずれも横に並んで刻
まれている。



7 青川自然石博物館



1 青川
伊能忠敬の『測量日記』に
「水は一、二、三間、河原斗
百十一間」とある。

約 950 m

約 500 m

約 200 m

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・
城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他
文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・
資料館
 - まちがえやすい
分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(19) 東村・B

(いなべ市北勢町麓村～藤原町東禅寺)



1 山之神社



2 白口橋
多志田川にかかる。



3 地藏堂



4 観音寺
街道右側。茶色っぽい瓦が
昔かれており、あまり寺らしく
見えない。



5 賀毛神社
治田七カ字の総宮式内社。



6 賀毛神社の参道
賀毛神社の参道は、神社から
まっすぐ200メートルも
続いていて、馬駆神事の馬
場ともなっていたという
が、県道西野尻垣内線に分
断されてしまった。



5 賀毛神社
治田七カ字の総宮式内社。



7 重五郎橋
多志田川にかかる。



8 明源寺
多志田川から明源寺までの
巡見道は急な坂道となっ
ている。赤茶色の瓦の寺。



9 西教寺
下野国(栃木県)の僧。教田
が北勢地方で浄土真宗の教
えを広めていたおり、東禅
寺の荒廃していた寺を再興
したもの。本堂は文化11年
(1814)の再建。

線路の下
を抜ける。

約 950 m

約 500 m

約 200 m

この部分は
54・55 ページを
ご覧ください

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

三岐鉄道三岐線

伊勢治田駅

青川

太平洋セメント大工

(20) 東禅寺

(いなべ市藤原町東禅寺～石川)



8 妙福寺
石川の集落入り口。このあたりは新しい道路が何本も交互しているので、街道がわかりにくい。



9 地藏堂
妙福寺境内。石川の集落の中央を貫いている坂のあたりにあったが、境内に移された。毎年8月24日に地藏盆が行われる。



7 員弁川さかな館



6 地藏堂
墓地の端にある。



5 エンゲ坂
東禅寺御厨神社からの下り坂。



3 東禅寺御厨神社
社殿の一部に像の彫刻がある。神社の名前にもある「東禅寺」は、昔この地にあった大寺院で、戦国時代に兵火により廃寺となったが、寺名が地区名として残っている。



4 石燈籠
文政6年(1823)に大火があり、天保4年(1833)に防火の願いを込めて建てられたものであるという。以前は観音堂向かいの酒屋の前にあったが、現在は御厨神社に移されている。「天保四年中冬八天宮」と刻まれている。



10 石神社
石川地区の南方、字垣内にある。「巡見道見取図」には、巡見道より西に氏神社が書かれている。



11 石神社の社叢
いなべ市指定天然記念物



1 観音堂
街道の右側の空き地にある。「伊勢朝雑記」に「戌亥山観音寺、旧号辻山東福寺ト称ス境内、藤多シ、華盛ノ頃イト美観ナリ」とある。



2 観音堂内部
堂の中は真ん中に石製の観音像らしきものを挟んで金属製の箱がふたつ並んでいる。また、堂の中には布で三角形をつくり綿を詰めた飾りがたくさんぶら下げられている。



10 石神社
石川地区の南方、字垣内にある。「巡見道見取図」には、巡見道より西に氏神社が書かれている。



11 石神社の社叢
いなべ市指定天然記念物



3 東禅寺御厨神社
社殿の一部に像の彫刻がある。神社の名前にもある「東禅寺」は、昔この地にあった大寺院で、戦国時代に兵火により廃寺となったが、寺名が地区名として残っている。



4 石燈籠
文政6年(1823)に大火があり、天保4年(1833)に防火の願いを込めて建てられたものであるという。以前は観音堂向かいの酒屋の前にあったが、現在は御厨神社に移されている。「天保四年中冬八天宮」と刻まれている。



1 観音堂
街道の右側の空き地にある。「伊勢朝雑記」に「戌亥山観音寺、旧号辻山東福寺ト称ス境内、藤多シ、華盛ノ頃イト美観ナリ」とある。

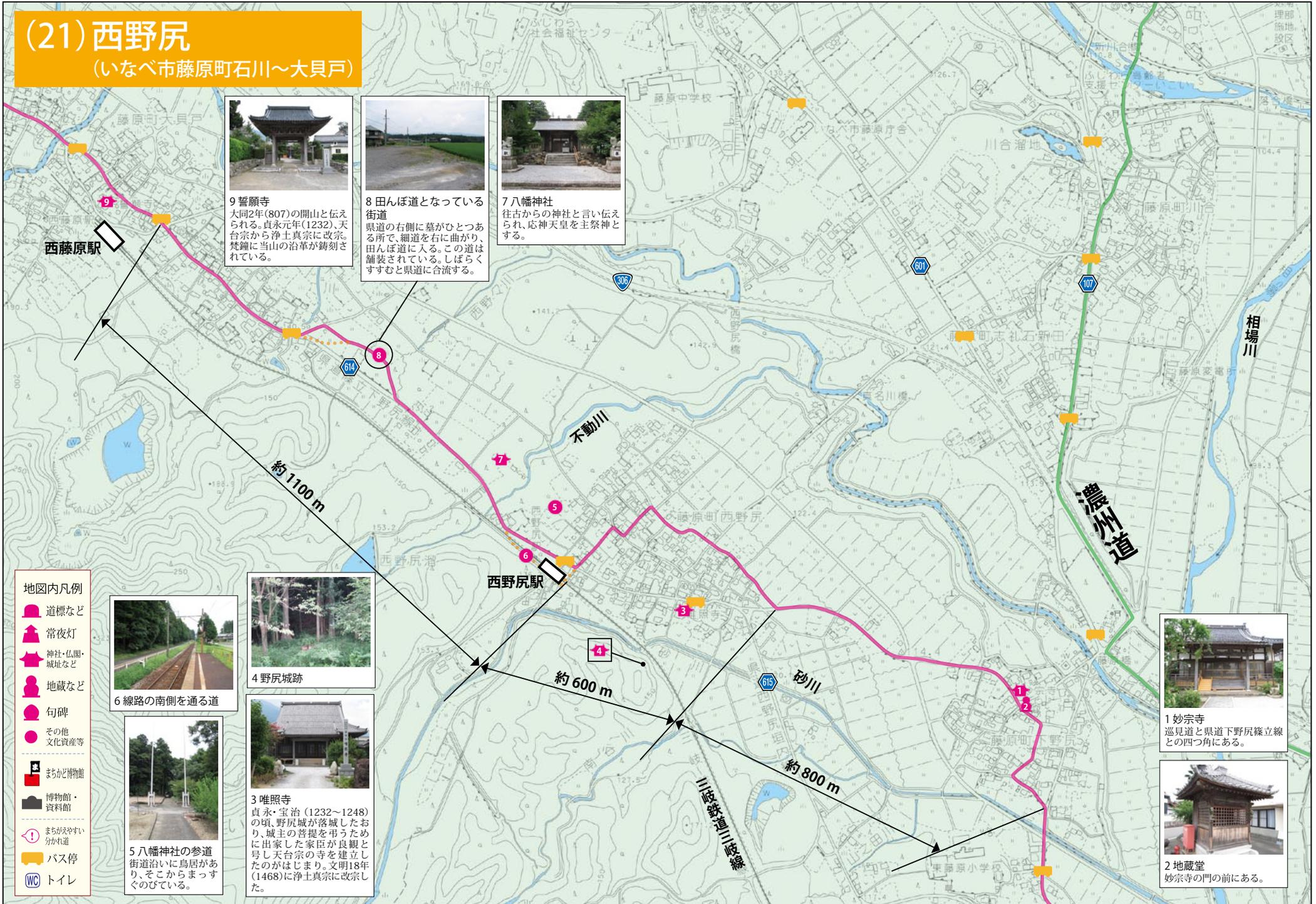


2 観音堂内部
堂の中は真ん中に石製の観音像らしきものを挟んで金属製の箱がふたつ並んでいる。また、堂の中には布で三角形をつくり綿を詰めた飾りがたくさんぶら下げられている。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(21) 西野尻

(いなべ市藤原町石川～大貝戸)



9 誓願寺
大同2年(807)の開山と伝えられる。貞永元年(1232)、天台宗から浄土真宗に改宗。梵鐘に当山の沿革が鐫刻されている。



8 田んぼ道となっている街道
県道の右側に墓がひとつある所で、細道を右に曲がり、田んぼ道に入る。この道は舗装されている。しばらくすすむと県道に合流する。



7 八幡神社
往古からの神社と伝えられ、応神天皇を主祭神とする。



6 線路の南側を通る道



4 野尻城跡



5 八幡神社の参道
街道沿いに鳥居があり、そこからまっすぐのびている。



3 唯照寺
貞永・宝治(1232～1248)の頃、野尻城が落城したおのり、城主の菩提を弔うために出家した家臣が良綱と号し天台宗の寺を建立したのははじまり。文明18年(1468)に浄土真宗に改宗した。



1 妙宗寺
巡見道と県道下野尻篠立線との四つ角にある。

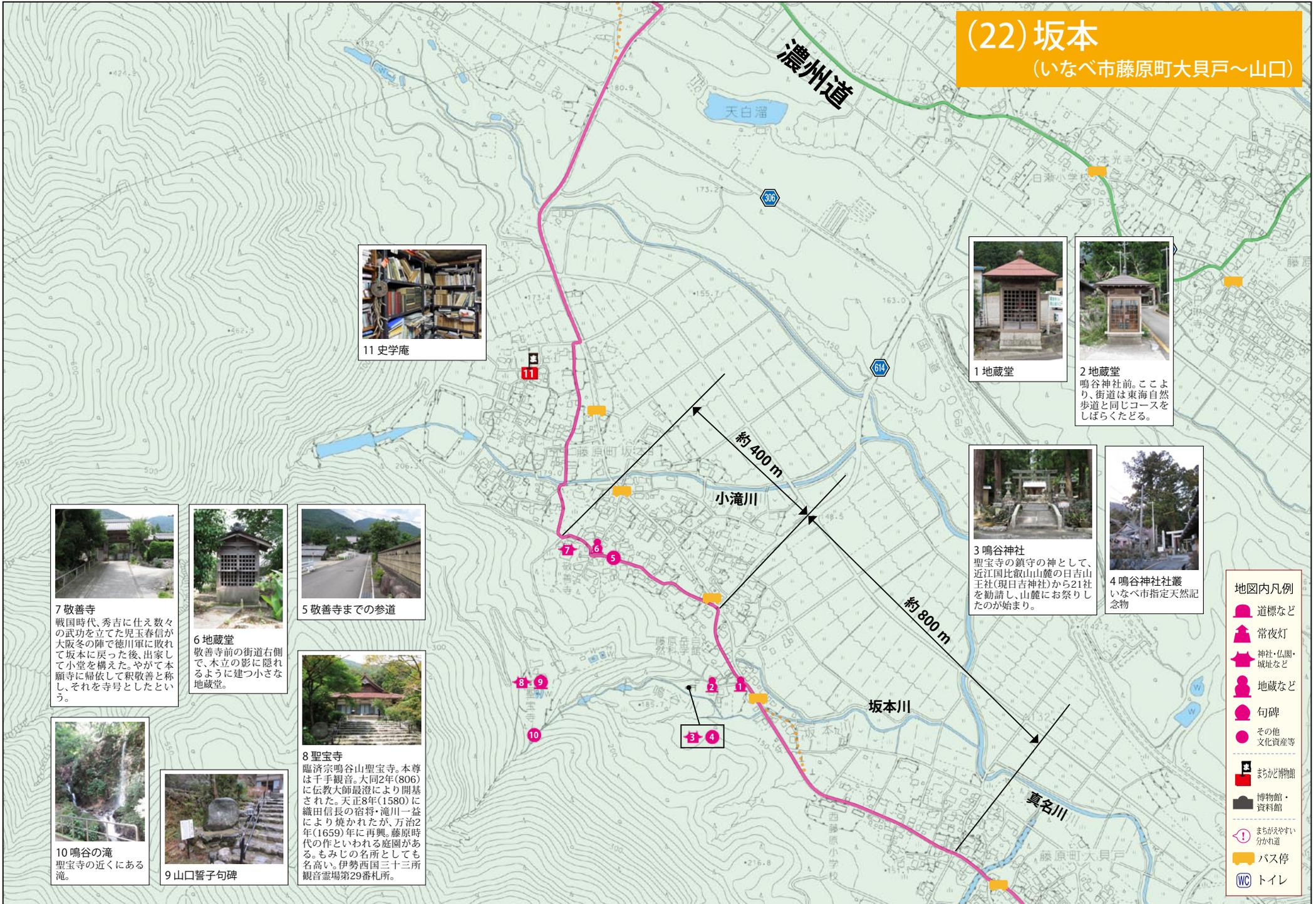


2 地藏堂
妙宗寺の門の前にある。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(22) 坂本

(いなべ市藤原町大貝戸～山口)



11 史学庵



1 地藏堂



2 地藏堂

鳴谷神社前。ここより、街道は東海自然歩道と同じコースをしばらくたどる。



3 鳴谷神社

聖宝寺の鎮守の神として、近江国比叡山麓の日吉山王社(現日吉神社)から21社を勧請し、山麓にお祭りしたのが始まり。



4 鳴谷神社社叢

いなべ市指定天然記念物



7 敬善寺

戦国時代、秀吉に仕え数々の武功を立てた児玉春信が大阪冬の陣で徳川軍に敗れて坂本に戻った後、出家して坂本に構えた。やがて本願寺に帰依して釈敬善と称し、それを寺号としたという。



6 地藏堂

敬善寺前の街道右側で、木立の影に隠れるように建つ小さな地藏堂。



5 敬善寺までの参道



8 聖宝寺

臨済宗鳴谷山聖宝寺。本尊は千手観音。大同2年(806)に伝教大師最澄により開基された。天正8年(1580)に織田信長の宿将・滝川一益により焼かれたが、万治2年(1659)年に再興。藤原時代の作といわれる庭園がある。もみじの名所としても名高い。伊勢西国三十三所観音霊場第29番札所。



10 鳴谷の滝

聖宝寺の近くにある滝。

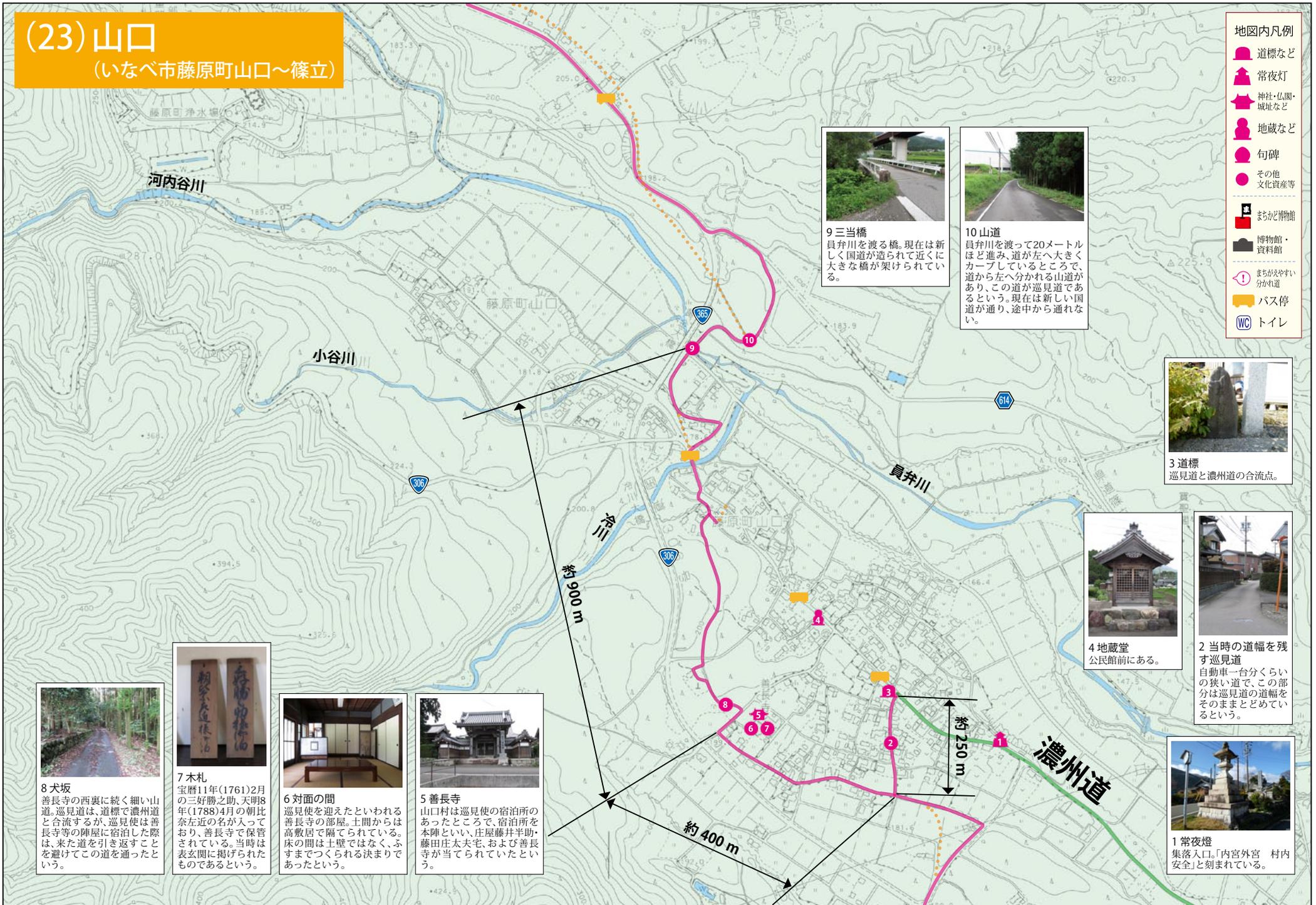


9 山口誓子句碑

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(23) 山口

(いなべ市藤原町山口～篠立)



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他 文化遺産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがやせり分け道
 - バス停
 - トイレ



9 三当橋
員弁川を渡る橋。現在は新しく国道が造られて近くに大きな橋が架けられている。



10 山道
員弁川を渡って20メートルほど進み、道が左へ大きくカーブしているところで、道から左へ分かれる山道があり、この道が巡見道であるという。現在は新しい国道が通り、途中から通れない。



3 道標
巡見道と濃州道の合流点。



4 地藏堂
公民館前にある。



2 当時の道幅を残す巡見道
自動車一台分くらいの狭い道で、この部分は巡見道の道幅をそのままとどめているという。



1 常夜燈
集落入口。「内宮外宮 村内安全」と刻まれている。



8 犬坂
善長寺の西裏に続く細い山道。巡見道は、道標で濃州道と合流するが、巡見使は善長寺等の陣屋に宿泊した際は、来た道を引き返すことを避けてこの道を通ったという。



7 木札
宝暦11年(1761)2月の三好勝之助、天明8年(1788)4月の朝比奈左近の名が入っており、善長寺で保管されている。当時は表玄関に掲げられたものであるという。



6 対面の間
巡見使を迎えたといわれる善長寺の部屋。土間からは高敷居で隔てられている。床の間は土壁ではなく、ふすまでつくられる決まりであったという。



5 善長寺
山口村は巡見使の宿泊所であったところで、宿泊所を本陣といい、庄屋藤井半助・床の間は土壁ではなく、ふすまでつくられる決まりであったという。

約900m

約250m

約400m

(24) 篠立

(いなべ市藤原町篠立～古田)



3 龍王さんの大杉
いなべ市指定天然記念物



4 長楽寺
街道沿いの道標からまっすぐに長い参道をのぼったところにある。寺の建物はわらぶき屋根の面影を残している。



5 明行寺
長元年間(1028～1037)に比叡山の安慧和尚が、阿弥陀如来の木像一体ならびに薬師如来の尊像を護持してこの地に一字の堂舎を建立し、その尊像を安置したのが始まりとされている。



2 道標
細長い自然石に「かんのん道」と刻まれている。時代は不明。篠立の長楽寺への参道のはじまり。



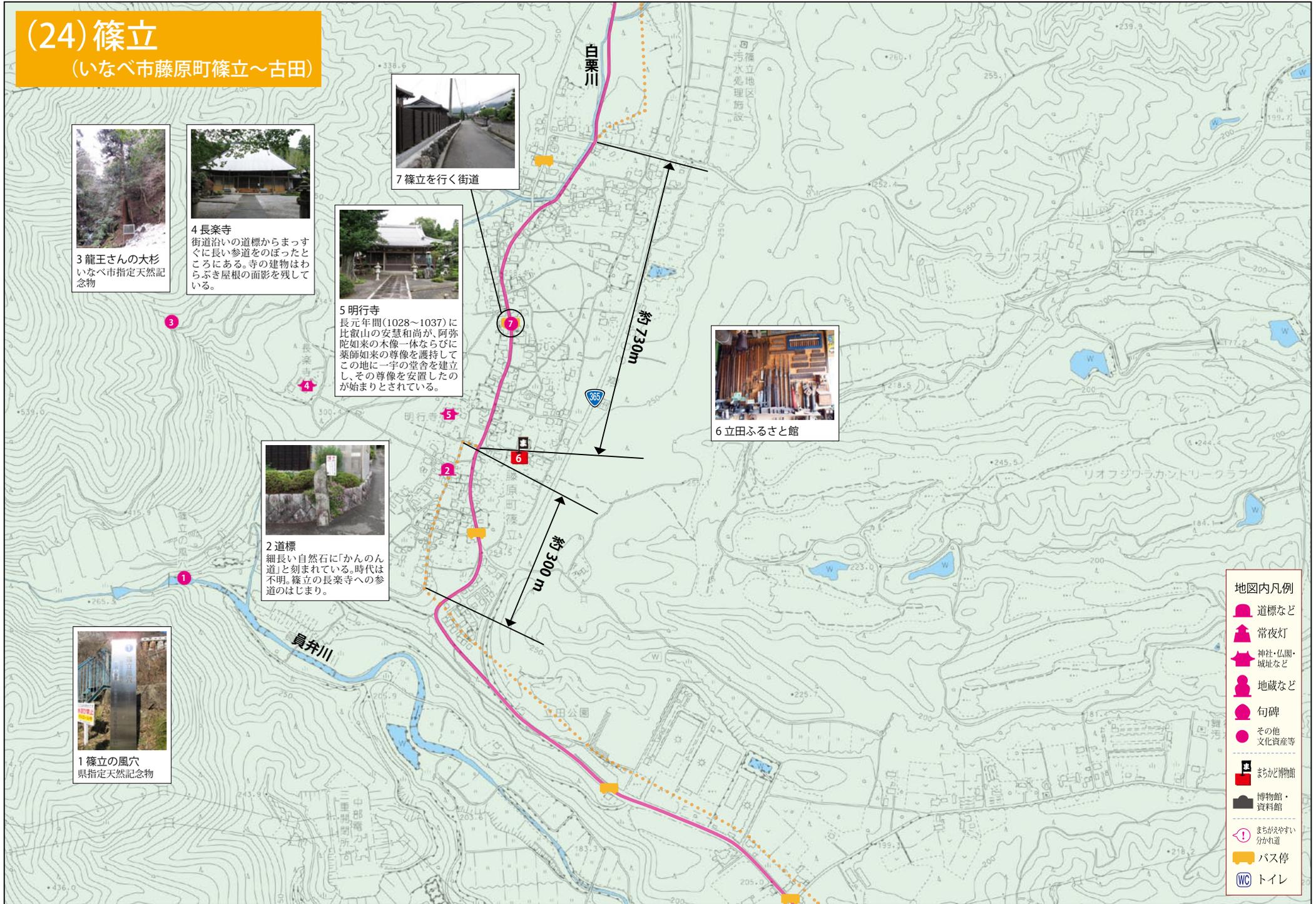
1 篠立の風穴
県指定天然記念物



7 篠立を行く街道



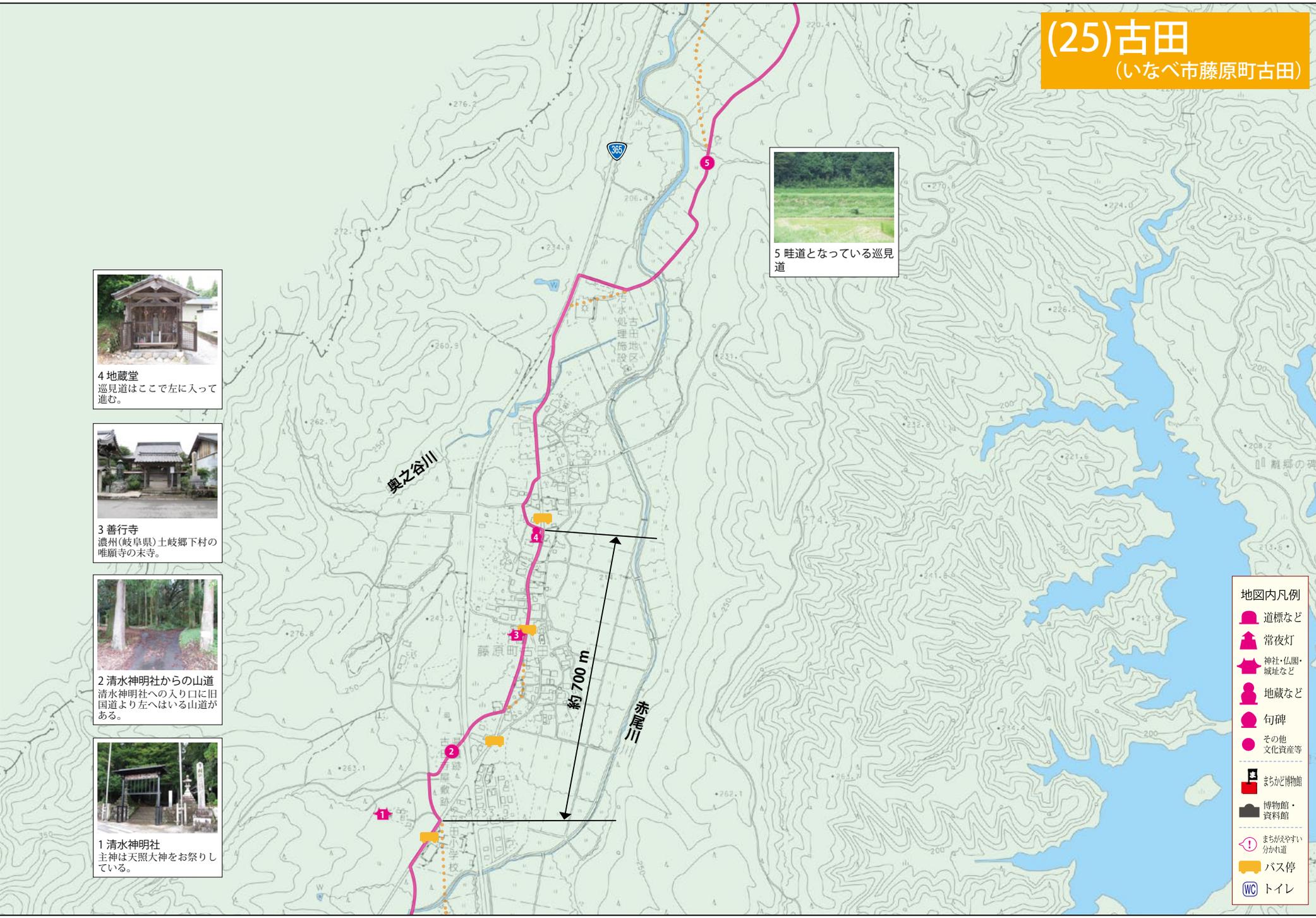
6 立田ふるさと館



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちがど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(25)古田

(いなべ市藤原町古田)



4 地藏堂
巡見道はここで左に入って進む。



3 善行寺
濃州(岐阜県)土岐郷下村の唯願寺の末寺。



2 清水神明社からの山道
清水神明社への入り口に旧国道より左へはいる山道がある。



1 清水神明社
主神は天照大神をお祭りしている。



5 畦道となっている巡見道

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

memo

A series of horizontal dotted lines for writing.

memo

A series of horizontal dotted lines for writing.

このウォーキングマップは、三重県の街道を訪れる人や、地域に暮らす人誰もが街道や周辺の文化資産等に興味を持ち、触れることができるように作成しました。

場所によっては旧街道のルート自体が道で無くなっていたり、現在は通行できない箇所もあります。

その場合は迂回路等をご案内しており、史実に沿わない部分もありますが、あくまで旧街道を基本に周辺に残る文化や、新しく発展した文化などをご紹介します、散策を目的にご利用いただくものとご理解ください。

地図上のマークの位置は目安で、実際の位置と若干異なる場合があります、隣接する資産等はを並べて表示している場合がありますので、ご注意ください。

また、マップに掲載されている「まちかど博物館」や「博物館・資料館等」につきましては、開館日や開館時間等が決められており、予約が必要な場合もありますので、事前にご確認・ご連絡の上、訪問していただきますようお願いいたします。

なお、お気づきの点等がありましたら、ご指摘等いただければ幸いです。

みえの歴史街道の詳細情報やまちかど博物館、博物館・資料館の連絡先や概要、句碑の詳細情報などは下記ホームページからご覧いただけます。

「三重の文化」ホームページ

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/>

- 掲載されている文化資産やまちかど博物館等の情報は平成24年2月時点のものです。
- この地図は三重県自治会館組合管理者の承認を得て、同組合所管の「2006三重県共有デジタル地図(数値地形図縮図10,000)」を使用し、調整したものです。(承認番号:三自治地第195号)本成果を複製あるいは使用して地図を調整する場合は、同組合の承認を必要とします。
- バス停・トイレの情報は「平成22年度生活密着型地理空間情報整備緊急雇用創出事業」で、平成22年10月から23年1月にかけて調査したものです。



みえ歴史街道

～みえ歴史街道構想～

三重の「街道」の持つ魅力を、
観光資源としてだけでなく、
豊かでうるおいのある生活や
文化を創造していく資源として活かし、

1

住む人、訪れる人の両方が
満足できるような地域づくり

2

未来へ向けて様々な
新しい交流が生まれる地域づくり

3

各地域の個性を磨きながら、
広域的に一体感のある地域づくり

を目指す三重県の構想。

(お問い合わせ先)

〒514-8570 三重県津市広明町13番地
三重県環境生活部文化振興課

電話：059-224-2233 e-mail:bunka@pref.mie.jp